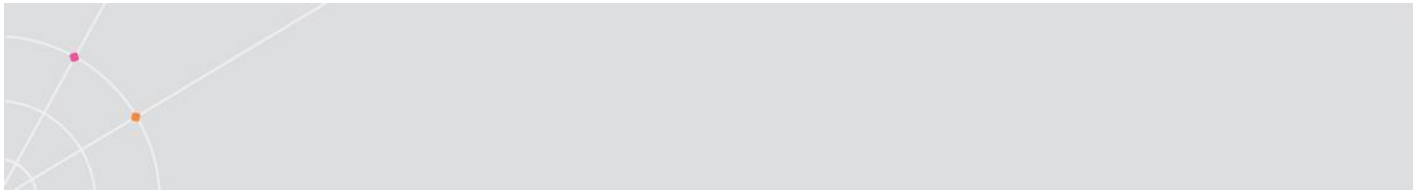


Ericom WebConnect Client 3.5, Blaze Client 3.5, AccessToGo™ 3.5

ユーザマニュアル



法律上のお知らせ

この資料は以下の条件ならびに制約の対象となります。

このマニュアルは **Ericom WebConnect Client**、**Ericom Blaze Client**、そして **Ericom AccessToGo™**に関する資料です。

この情報の所有権は **Ericom® Software** に属しており、**Ericom AccessToGo™**の利用を認可されたユーザのみを支援する目的においてのみ提供されています。

この資料の内容のいかなる部分も、電子的または機械的ないかなる手段により、いかなる目的にて、いかなる個人や会社に対しても、**Ericom® Software** からの書面による事前の許可なしで公表してはなりません。

テキストやグラフィックスは例えや参考用のみとなっています。その基となる詳細は報告なしに変更される場合があります。

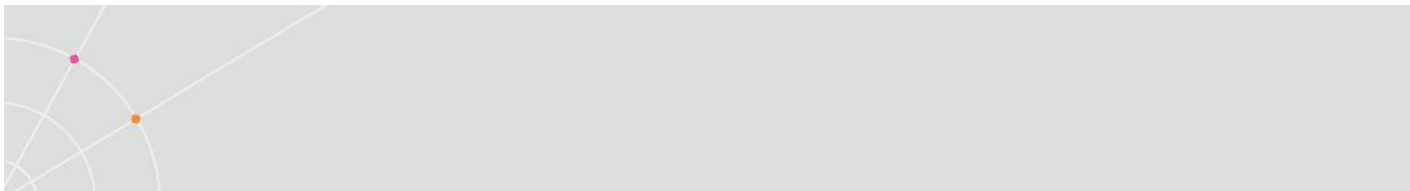
この資料で説明されているソフトウェアはライセンス契約のもとで提供されています。このソフトウェアは契約条件に従ってのみ、利用したり、コピーしたりすることができます。

この資料の情報は事前の報告なしに変更される場合があります。例えて用いられている企業や個人の名称等は注意書きがある場合以外は、あくまで架空のものとなります。

AccessToGoUG20141208

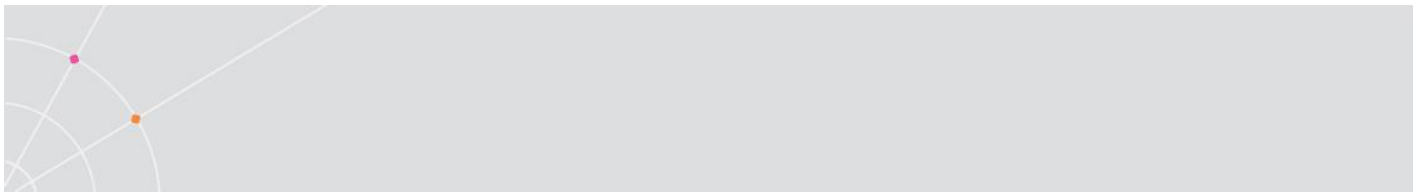
Copyright © 1999-2014 Ericom® Software.

Ericom® ならびに **AccessToGo** は **Ericom® Software** の登録商標となっています。その他の企業ブランド、製品またはサービス名は商標または所有者の登録商標となっています。

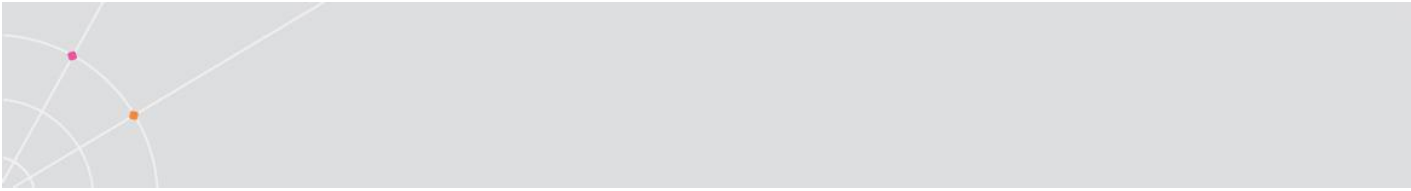


目次

法律上のお知らせ	2
この資料につきまして	5
1. 概要	6
アーキテクチャ	6
Blaze RDP 圧縮と高速化	9
新機能	9
2. 開始する	10
必要とされるもの	10
デバイスの必須条件	10
AccessToGo をダウンロードする	10
接続リスト	11
接続のオプション	12
オンラインのヘルプ	13
新たな接続を作成する	13
接続用パラメータ	14
接続の解除と終了	16
Ericom Secure Gateway を設定する	16
3. ACCESSTOGO を用いる	18
AccessToGo ツールバー	18
指をマウスとして使用する	19
スクリーン上のマウスを使用する	19
スクリーン上のタッチパッド・マウスを使用する	20
キーボード・ツールバーを使用する	21
スクリーン上のキーボードを使用する	22
スクリーン上のファンクション・キーボードを使用する	23
リモート・セッションの PPI 解像度	23
デバイスとホスト間でのテキストのコピー&ペースト	24
物理キーボードとマウスを使用する	25
タブレット・ファンクション・バーを使用する	26
拡張メニューを使用する	27
タブレット分割キーボードを使用する	28
テキスト入力時のキーボードの自動表示と配置	28
4. デスクトップに接続する	30
自動角度調整と自動サイズ調整	31



5. アプリケーションに接続する	32
6. リモート・アクセスを設定する	34
7. POWERTERM WEBCONNECT 接続を設定する	35
ユーザインターフェイスを用いる	36
二要素認証のサポート	37
8. VMWARE VIEW 接続を設定する	38
9. 設定	39
外見	39
言語とキーボード	39
接続	40
バージョン	40
ジェスチャ	41
リモート・デスクトップのセッション PPI (インチあたりのピクセル)	42
10. URL スキーム	44
.rdp ファイルまたは.blaze ファイルを作成する	45
MIME タイプを Web サーバに追加する	45
設定ファイルパラメータ定義	47
AccessToGo の URL スキームを用いてアプリケーションを開始する	51
XTEA を用いて暗号化されたパスワードを渡す	51
11. テクニカル・サポート	52
接続を確認する	52
URL スキームが機能しない	52
RDP SSL を無効とする	52
PTWC や ESG での SSL 認証エラー	53
テクニカル・サポートを依頼する	54
ERICOM について	55



この資料につきて

このマニュアルでは、互換性のある携帯電話またはタブレット・デバイスのブラウザから、仮想デスクトップやターミナルサーバに接続する上で、**Ericom WebConnect Client**、**Ericom Blaze Client**、**Ericom AccessToGo** の使用方法について説明しています。このマニュアルには、以下の情報が含まれています。

- **Ericom AccessToGo** の概要
- 使用手順
- 周知の問題点と限界点

このマニュアルでは、読者が以下の知識をすでにお持ちであることを前提としています。

- **Windows** オペレーティング・システムで **RDP** を有効とする
- ファイヤーウォールの設定
- **AccessToGo** がインストールされるデバイスに精通している

この資料で用いられている重要な技術用語

- **RDP**：リモート・デスクトップ・プロトコル（Remote Desktop Protocol）の略。Microsoft にて開発されたリモート表示のプロトコル。RDP は Microsoft Windows の基本的なコンポーネントのひとつです。
- **RDP ホスト**：Microsoft RDP を用いてリモートよりアクセスできるシステム。リモート・アクセスが可能なターミナル・サーバ（RDS セッション・ホスト）や Windows ワークステーション等。
- **SSL**：セキュア・ソケット・レイヤ（Secure Sockets Layer）はインターネット上で安全なコミュニケーションを提供するための暗号化プロトコルです。

この製品またはその他の **Ericom** 社提供製品につきては、こちらのウェブサイトをご覧ください。 [Ericom 社 ウェブサイト](http://www.ericom.com) (www.ericom.com)



1. 概要

Ericom *AccessToGo* はエンドユーザに対し、互換性のある携帯電話やタブレット・デバイスから Windows デスクトップやアプリケーションにリモート接続する機能を提供します。

Ericom *WebConnect Client* では *AccessToGo* と同じ機能とインターフェイスが用いられていますが、PowerTerm *WebConnect* 接続のみでの利用となります。詳細につきましては、*AccessToGo* 利用と *WebConnect* 設定に関する箇所をご覧ください。

Ericom *Blaze Client* では *AccessToGo* と同じ機能とインターフェイスが用いられていますが、*Blaze* 接続のみでの利用となります。詳細につきましては、*AccessToGo* 利用と *Blaze* 設定に関する箇所をご覧ください。Blaze の 2.x バージョンと 3.x バージョンには互換性がありません。Ericom *Blaze Client* には *Access Server 3.x* が必要となります。

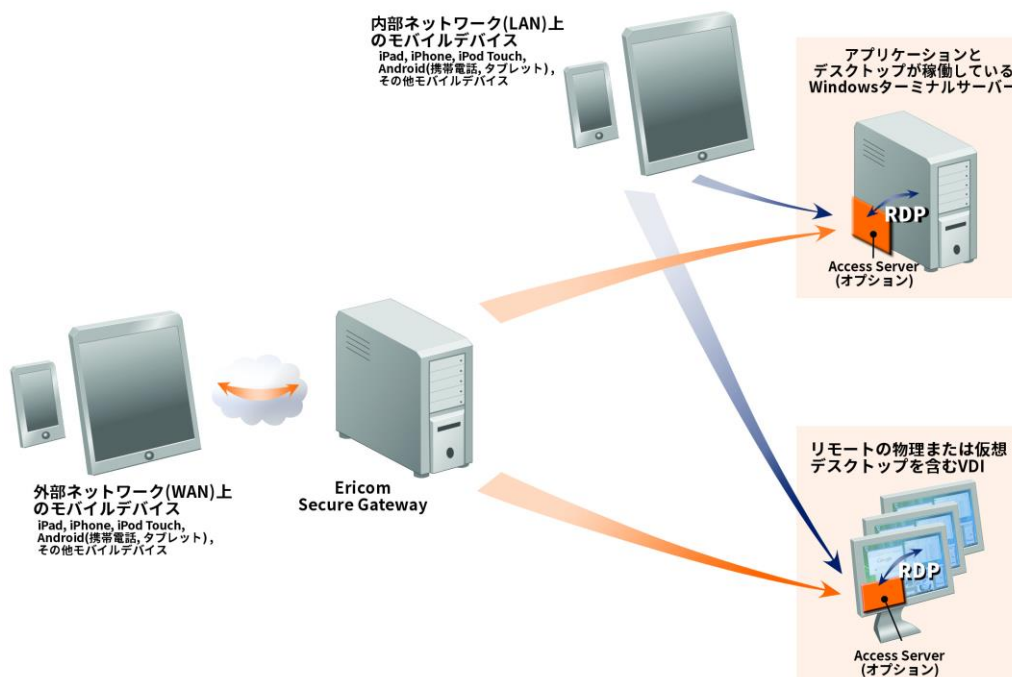
テクニカル・サポートに関する質問または要望につきましては、こちらに E メールを送付ください。 mobile@ericom.com

アーキテクチャ

Ericom *AccessToGo* は 3 つのインストール可能なコンポーネントにより構成されています。

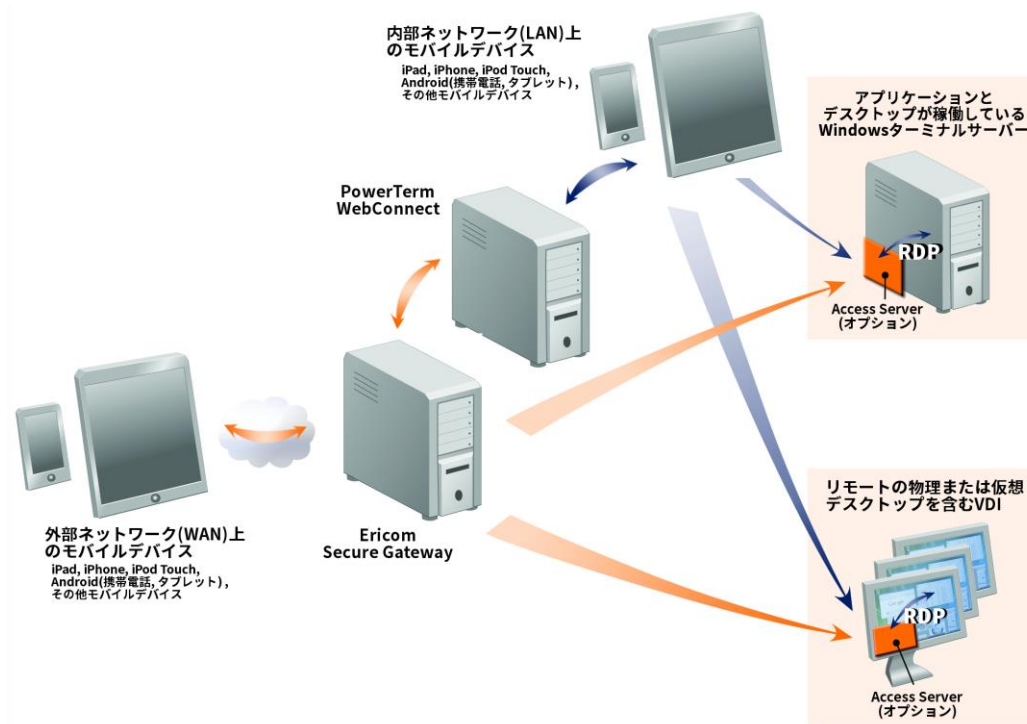
- a. ダウンロード可能なクライアント
- b. (オプション) RDP 高速化と圧縮のための *Access Server*
- c. (オプション) デスクトップやアプリケーションに安全かつ暗号化されたリモート・アクセスを提供する *Secure Gateway Service*

この図では、*AccessToGo* のコンポーネントがそれぞれに対しどのように連動するかが示されています。オレンジ色の矢印はリモート接続を示しており、青い矢印は内部接続を示しています。

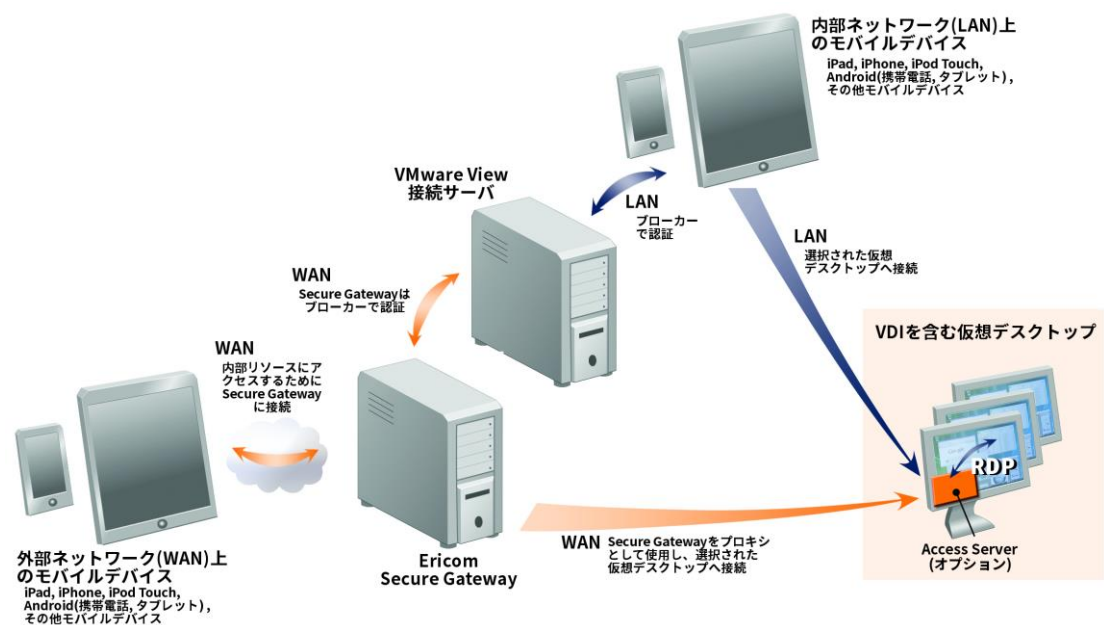


1. エンドユーザは互換性のある携帯電話やタブレットにて **Ericom AccessToGo** クライアントを開始します。 **AccessToGo** アプリケーションに接続用パラメータを入力します。
2. **AccessToGo** は対象となる **RDP** ホストに対し、**RDP** または **Blaze** 接続を試みます。
 - a. オプションの **Ericom Secure Gateway** が用いられる場合には、**AccessToGo** セッションはセキュアポート（初期設定値は **443**）経由で接続されます。
3. もし **Blaze** が有効な場合は、**Access Server** は **AccessToGo** セッションを受け入れ、**RDP** を高速化します。（初期設定値のポート **3399** 経由にて）もし **Blaze** が有効でない場合には、**AccessToGo** セッションは直接 **RDP** にて受け入れられます。（初期設定値のポート **3389** 経由にて）

この図では、**AccessToGo** のコンポーネントがそれぞれに対し、また **PowerTerm WebConnect** ブローカーに対してどのように連動するかが示されています。オレンジ色の矢印はリモート接続を示しており、青い矢印は内部接続を示しています。



この図では、AccessToGo のコンポーネントがそれぞれに対し、また VMware View ブローカーに対してどのように連動するのが示されています。オレンジ色の矢印はリモート接続を示しており、青い矢印は内部接続を示しています。





Blaze RDP 圧縮と高速化

Ericom AccessToGo には Ericom 社の RDP 圧縮と高速化に関する **Blaze** テクノロジーが含まれています。この優れた機能により、遅いネットワーク接続上でのリモート・デスクトップのパフォーマンスが強化されます。高画質なグラフィックス画像やアニメーションを含むコンテンツを見る際にも、この高速化されたセッションを役立てる事ができます。

このテクノロジーには主に **3** つの機能が備わっています。

- 画像の圧縮
- パケットのシェーピング
- フレーム全体のレンダリング

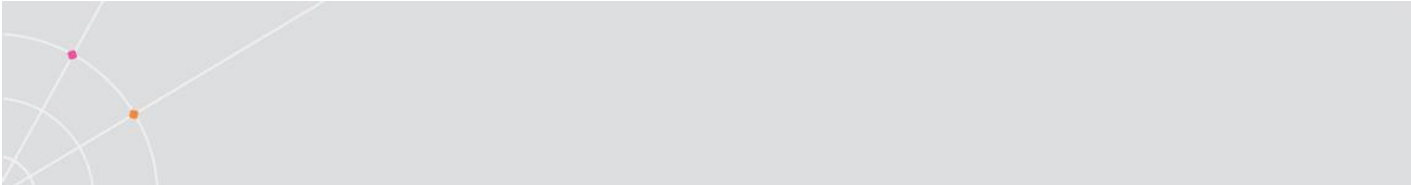
画像の圧縮とは、クライアントにレンダリング用の画像を転送する前にそれらの画像を圧縮することを意味します。圧縮の度合いは、ユーザによって選択された高速化／品質の度合いによって異なります。（初期設定値は管理者により設定することができます）

パケットのシェーピングはネットワークの利用状況やパフォーマンスを向上するためにネットワークのメッセージを最適化します。

フレーム全体のレンダリングとは、通常の **RDP** で行われるようなブロック単位ではなく、全体として表示がアップデートされることを意味します。この点はとりわけビデオを見たり、遅いネットワーク接続を用いている場合に違いがより明確になります。この機能をその他の最適化機能と共に用いる事により、あたかもローカルのデスクトップで機能を用いているような、よりスムーズな表示が可能となります。

新機能

- 新たなズーム用ジェスチャ
- テキスト入力欄の自動キーボード配置
- 自動キーボード配置機能の有効／無効を設定
- **PowerTerm WebConnect 6.0** の二要素認証をサポート
- 最新の **Blaze** パフォーマンスのための **Access Server 3.x** をサポート
- 容易なナビゲーションのためにアップデートされた設定メニュー
- 古い **Blaze Server** に接続した際の **RDP** フォールバック
- **Android 5** への対応
- 二要素モードでの **PIN** 入力



2. 開始する

必要とされるもの

エンドユーザとリモート・デスクトップ間のセッション用コミュニケーションには RDP が用いられるため、**RDP** ホストにて **RDP** アクセスを有効とします。

- 対象となる RDP ホストにて RDP 接続が可能かどうかをネットワーク管理者に確認します。
- 対象となる PC にて RDP を有効にします。[コントロールパネル]-[システム]-[リモートの設定]に進みます。リモートデスクトップのセクションにて「リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する」を選択してください。ネットワークレベル認証は現在サポートされていないため、3 番目の設定は選択しないでください。
- ユーザーの選択 ボタンをクリックし、リモート接続を許可するユーザを追加します。OK をクリックします。
- システムの Window ファイヤーウォールにて受信用 RDP 接続（初期設定値ポートは 3389）が許可されているかを確認します。もし Ericom 社提供プロトコルが用いられている場合には、そちらの接続も開くようにします。（AccessNow: 8080、Blaze: 3399）

ターゲットとなる PC に対し、RDP ポート経由での受信用接続を許可するようにネットワークやルータのファイヤーウォールを設定します。

デバイスの必須条件

AccessToGo は少なくとも 512 MB の RAM がデバイスにインストールされている事が必要となります。以下のデバイスはサポートされています。

- Apple iOS 5 またはそれ以上
- Android OS 2.1 またはそれ以上

AccessToGo をダウンロードする

デバイスのマーケットプレイス（例：Google Play Store や Apple App Store）にて Ericom と検索し、お望みのアプリを選択します。

- AccessToGo
- Ericom WebConnect Client
- Ericom Blaze Client

アプリケーションがダウンロードされた後、デバイスのアプリケーション用リストにアイコンが表示されます。アイコンをタップするとアプリケーションが開始されます。

AccessToGo (RDP、Blaze、PowerTerm WebConnect アクセスが含まれる)



Ericom WebConnect Client (PowerTerm WebConnect アクセスのみ)

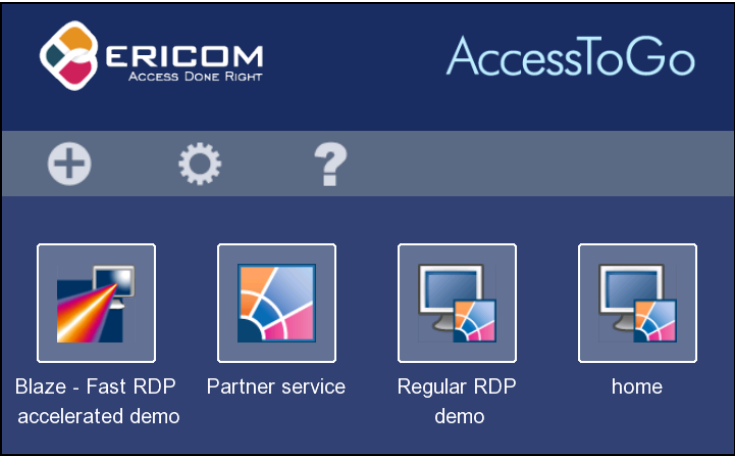
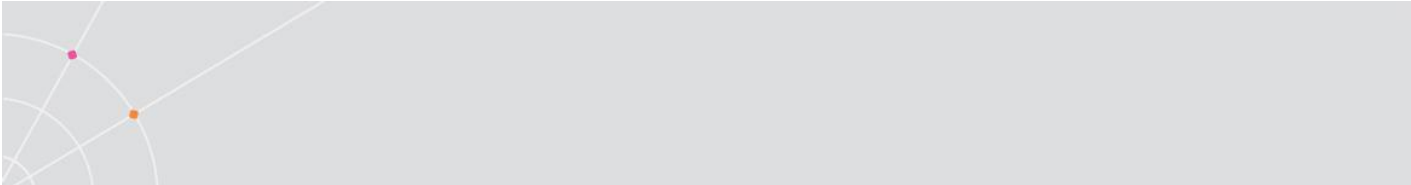


Ericom Blaze Client (Ericom Blaze の高速化された RDP アクセスのみ)



接続リスト

Ericom AccessToGo が開始されると接続リストが表示されます。このリストには保存されたすべての接続が表示されます。米国にある Ericom 社のデモ用サーバ接続のための 2 つのサンプル接続も含まれています。RDP ホストへの接続に際し、ひとつの接続には一般的な RDP が、もうひとつの接続では Ericom 社の Blaze RDP 高速化が用いられます。新たな接続が既存の接続と同じ名前で作成された場合には、混乱を避けるために、その名前は自動的に別の名前へと置き換えられます。

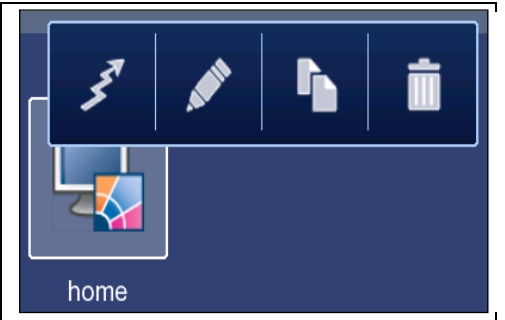



お望みの接続を押すか、タップ、またはクリックして開始します。

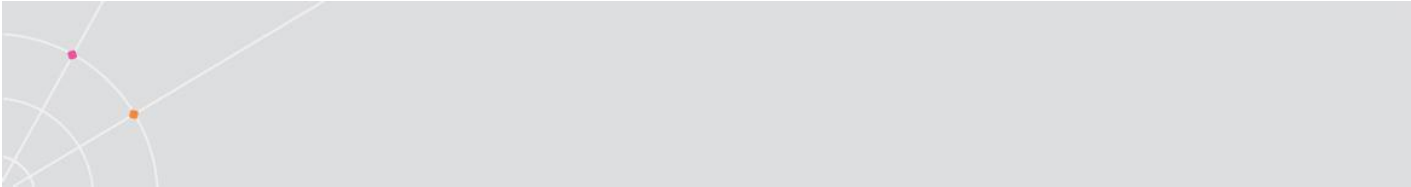
接続のオプション




既存の接続はコピー、変更、削除することが可能です。

接続にアクションを適用するには、アクション用メニューが表示されるまで希望する接続を押したままにします。



ボタン	機能	説明
	接続	設定されたパラメータを用いた接続



	編集	既存の接続パラメータの編集
	コピー	既存の接続のコピー
	削除	接続の削除

オンラインのヘルプ

オンラインの AccessToGo マニュアルを見るには、オンラインのヘルプボタンをタップします。



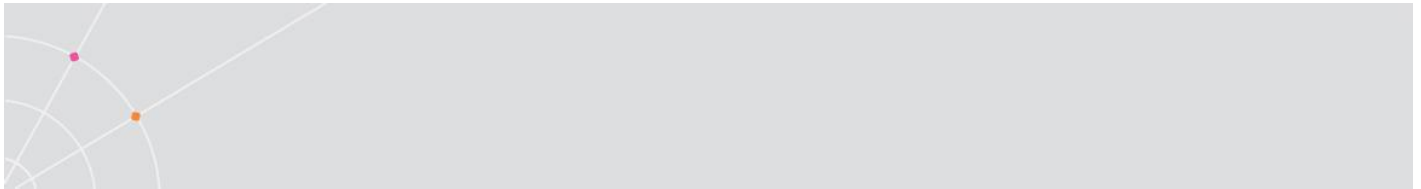
新たな接続を作成する

AccessToGo の接続リストのスクリーンにて「**新規接続の作成**」ボタンをクリックします。



5つのオプションを選択する事が可能です。お望みの接続タイプを選択し、接続パラメータを入力します。

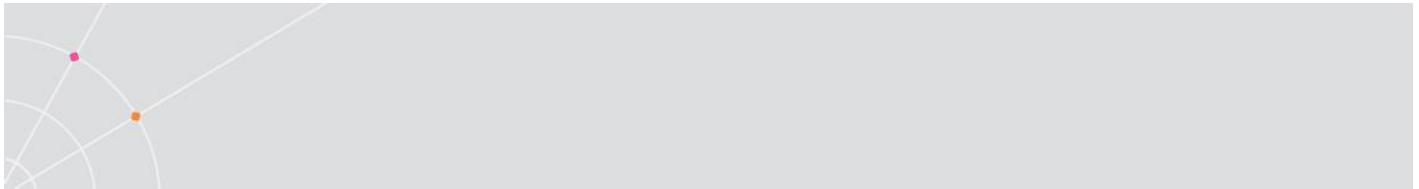
接続タイプ	説明
RDP (無料)	一般的な RDP を用いて RDP ホストに接続する。ホストにて RDP を有効とするようにしてください。
Blaze	RDP ホストに Blaze Server 2.5 または Access Server 3.x



	がインストールされている必要があります。遅いリモート接続を用いている際に、グラフィックス（動画、写真等）を表示している RDP スクリーンを高速化することが可能です。詳細につきましては、こちらのウェブサイトをご覧ください。 www.EricomBlaze.com Blaze 2.x と Blaze 3.x には互換性はありません。Ericom Blaze Client 3.x には Access Server 3.x が必要とされます。
VMware View (RDP)	VMware View ブローカにて管理されているデスクトップに接続します。RDP 接続は無料となります。
VMware View (Blaze)	Blaze を用いて VMware View ブローカにて管理されているデスクトップに接続します。Blaze 接続では仮想デスクトップ上に Access Server が必要です。
PowerTerm WebConnect (VDI / TS)	仮想アプリケーションやデスクトップにアクセスするために Ericom のブローカに接続します。

接続用パラメータ

接続用パラメータ	
接続名	設定された接続のカスタマイズ可能なラベル
コンピュータ	RDP が有効となっている接続先システムのアドレス。
ユーザ名	RDP ホストにログインするためのユーザの資格情報。オプションとして、ドメイン指定を含む事も可能です（例：domain\user）。Ericom Secure Gateway を用いている場合、このフィールドは必須となります。それ以外の場合はこのフィールドはオプションとなります。もし特定されていない場合には、ユーザは RDP ホストにより資格情報を求められます。
パスワード	ユーザ名に対応するパスワード。
Ericom Secure Gateway ユーザ	有効となっている場合には、AccessToGo は指定されている Ericom Secure Gateway を用いてリモート・デスクトップに接続します。
Ericom Secure Gateway	リモート接続用に Ericom Secure Gateway を設定し、選択します。
Blaze - RDP 高速化	チェックされている場合には、セッションにて画像の不可逆圧縮が有効となります。画質／高速化の程度はドロップダウン・リス



	トを用いて指定できます。 RDP ホストにて Access Server とアクティベートされたライセンスが必要になります。
高速化の画質	セッションにて有効となっている高速化の程度を調整します高速化の度合いが高い場合には、画質が低下します。
デスクトップサイズ	<p>リモート RDP デスクトップセッションのサイズ。もしリモート・デスクトップがモバイル・デバイスのウィンドウより大きい場合には、表示されていないデスクトップ部分を見るためにユーザはスクロールやズームを用いなければなりません。自動設定が有効となっており、デバイスがタブレット（スクリーンのサイズが6インチまたはそれ以上）である場合には、フル・スクリーンにてセッションを開きます。タブレット以外のデバイスの場合には、リモート・デスクトップのサイズはアプリケーションに基づいて自動的に調整されます。</p> <p>重要：ご利用のデバイスにて最適の解像度で表示するためにどのように PPI を用いるかにつきましては「設定」の章をご参照ください。</p>
接続時にプログラムを起動する	アプリケーション開始モードを有効にする。ターミナルサーバ のセッションにて、アプリケーションのみが表示され、リモート・デスクトップはアクセス不可となります。 RDP を受け入れるワークステーション・システムでは、選択されたアプリケーションが開始されますが、デスクトップを表示するためにそのアプリケーションを小さく表示することができます。
パスとファイル名	開始するアプリケーションへのパスを指定します。
開始フォルダ	アプリケーションの開始フォルダを指定します。
色深度	セッションの色の深度を設定します。
デバイス上で音声を再生する	<p>RDP ホストにてオーディオが利用可能な場合に、セッションにてオーディオを有効とします。オーディオが利用可能かを確認めるには、mstsc.exe を用いて RDP ホストと接続し、オーディオが一般の PC でも再生できることを確認します。</p> <p>帯域の限られた接続や遅延度の高い接続を用いている場合には、オーディオのリダイレクトが正しく機能しない場合があります。音声の歪みやとぎれが生じるかもしれません。</p>
接続速度	ネットワークの接続速度を設定します。
デスクトップオプション	RDP に関するデスクトップ・エクスペリエンスの設定を調整します。
コンソールセッション	コンソールのセッションを有効とするためにこの設定をチェック

ン	します。これは、 mstsc.exe を用いている際に /console または /admin フラグを用いる事と同等となります。
---	--

接続の解除と終了

アクティブなセッションを解除する、またはアンドロイドのデバイスにて **AccessToGo** アプリケーションを終了するには、デバイスの「戻る」ボタンを押してください。プロンプトが表示され、接続の解除または終了の確認がなされます。



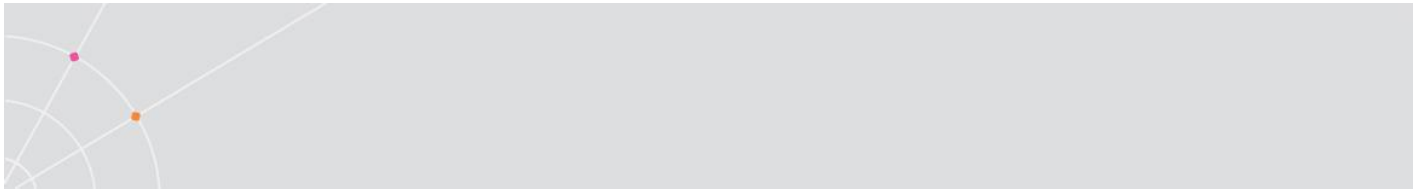
Ericom Secure Gateway を設定する

Secure Gateway は AccessToGo アプリケーションから社内の RDP ホストに暗号化されたリモート・アクセスを利用する際に用いられます。Secure Gateway は以下のモードにて利用可能となります：RDP、Blaze、RDP モードの VMware View、Blaze モードの VMware View。PowerTerm WebConnect 接続は Secure Gateway を自身のアドレスとして用います。（Secure Gateway が PowerTerm WebConnect サービスに対し、リバース・プロキシとして設定されている場合）

Secure Gateway は接続のオプションにて有効とする事ができます。



- 1) *Ericom Secure Gateway の使用* をチェックし、Secure Gateway の利用を有効とします。
- 2) その後、*Ericom Secure Gateway* をタップして、設定されている Secure Gateway を選択します。



- 3) 新たな **Secure Gateway** を追加するには、新規 **Gateway** ボタンをタップし、必要とされるフィールドへの入力を完了します。

フィールド	説明
サーバ	Secure Gateway サーバのアドレス
接続ポート	Secure Gateway サービスがリスニングしているポートの値
ユーザ名	Secure Gateway にて認証されるユーザ名
パスワード	Secure Gateway 用の対応するパスワード

- 4) お望みの **Secure Gateway** をタップし、有効とします。

注意 デフォルトのゲートウェイ用ポートは **443** となります。もし **Secure Gateway** がカスタムのポートをリスニングしている場合には、**接続ポート** パラメータに正しい値を入力するようにしてください。

Gateway 経由での **PowerTerm WebConnect** 接続

Secure Gateway 経由で **PowerTerm WebConnect** サーバに接続している場合には、**Secure Gateway** のパラメータ（アドレスとポート）を **PowerTerm WebConnect** サーバとして用いてください。





3. AccessToGo を用いる

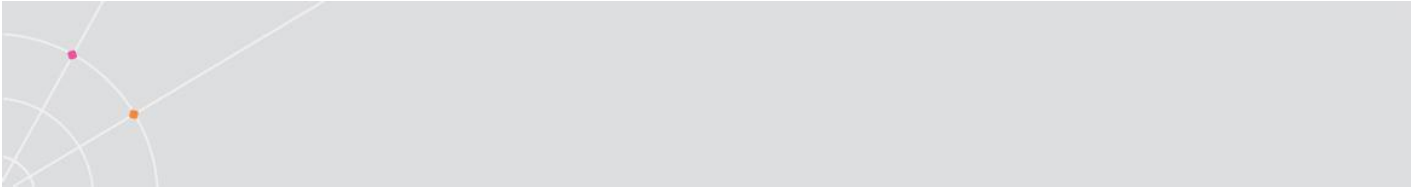
AccessToGo ツールバー

AccessToGo ツールバーは、セッションが開始された後、デスクトップまたはアプリケーションの下側に表示されます。**Android** ベースのデバイスで AccessToGo ツールバーを表示するには、デバイスのメニュー・ボタンを押します。（通常は一番左側のボタンとなります）

接続時にツールバーを表示するには、設定に進み、**常にバーを下に表示** をチェックします。



ボタン	機能	説明
	スクリーン上のマウス	スクリーン上のマウスの表示／非表示
	スクリーン上のタッチパッド・マウス	スクリーン上のタッチパッド・マウスの表示／非表示
	スクリーン上のキーボードの表示	スクリーン上のキーボードの表示
	ズームイン／ズームアウト	スクリーンのズームイン／ズームアウト
	リモート・マウス・モード (初期設定にて有効)	有効な場合は、すべてのマウスの動作やジェスチャはリモート・セッション内で適用されます。例えば、現在の表示をズームアウトする動作は無効となります。ローカルのスクリーンをスクロールするには、タップを半秒ほど保持し、指を動かします。
	スクロールホイールのモード	このモードが有効となっている場合には、指を上下になぞることにより、スクロールホイールの動作を再現することができます。
	メニューの表示	ジェスチャの設定等、さらなる機能を表示します。



	ツールバーを非表示とする	ツールバーが表示されている場合には、このボタンは非表示となります。
	ツールバーを表示する (Apple iOS のみ)	ツールバーが非表示の場合、このボタンが表示されます。Android デバイスでは、メニューボタンを押してツールバーを表示します。

指をマウスとして使用する

ユーザは自身の指を用いてマウスの動作を開始することもできます。ユーザがスクリーン上の一部をタップすると、クリックのインジケータが現れます。このインジケータは、セッションにてマウスのクリックが実行された場所の点と、指のタップを表す円により構成されます。

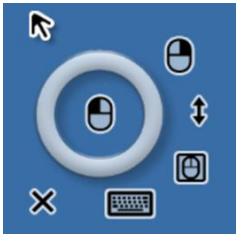
右クリックを実行するには、スクリーンをタップし、ホールドします。右クリックのインジケータが円になるまで待ち、その後リリースすることにより右クリックを実行します。

スクリーン上のマウスを使用する



スクリーン上のマウスはリモートのセッションとやり取りする上で役に立つ機能を提供します。マウスが有効であるかどうかに関わりなく、ユーザは自身の指を用いてセッションとのやり取りをすることが可能です。

実行する動作	ジェスチャ (指の使い方)
左クリック	シングル・タップ (一度のみタップ)
右クリック	シングル・タップ + ホールド

フルスクリーン上のマウスのアイコン



スクリーン上のマウスが有効な場合には、以下の機能が利用可能となります。

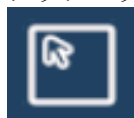
アイコン	機能	説明
	マウス／左クリック	このアイコンをタップすると左クリックが実行されます。このアイコンを押したままにし、スクリーン上にてマウスのポインタを動かします。
	ポインタ	このアイコンはマウスのポインタを意味します。
	右クリック	このアイコンをタップすると、マウスのポインタがある位置にて右クリックが実行されます。
	スクロールホイールのモード	このモードが有効となっている場合、スクリーンにて指を上下にスライドさせると、スクロール・ホイールの動作を再現できます。
	リモート・マウス・モード	有効な場合は、すべてのマウスの動作はリモート・セッション内で適用されます。例えば、現在の表示をズームアウトする動作は無効となります。ローカルのスクリーンをスクロールするにはタップを半秒ほどホールドし、指を動かします。
	スクリーン上のキーボード表示	スクリーン上にキーボードを表示します。
	マウスを閉じる	マウスを非表示とします。

スクリーン上のタッチパッド・マウスを使用する

タッチパッド・マウスはユーザがデバイスのスクリーンをタッチパッドとして用いる事を可能とします。タッチパッドが有効となっている場合、ユーザはマウスのコントロールを得るために、スクリーンのいかなる部分をもタップできます。指をスライドさせる

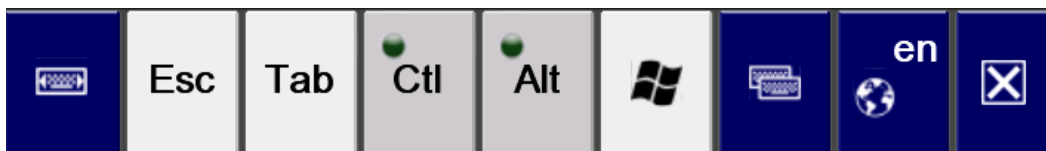
のみでスクリーン上のマウスを動かす事ができます。指は直接マウス上にある必要はありません。マウスをタップしホールドすると、右クリックが実行されます。タッチパッドが有効となっている場合においても、ユーザはスクリーン上でズームインやズームアウトの動作を行う事ができます。

タッチパッドのマウス・ボタン

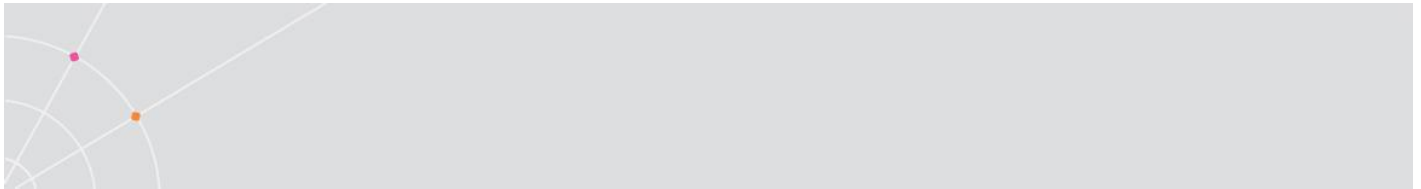




キーボード・ツールバーを使用する

AccessToGo にはより強化されたキーボード機能が含まれています。スクリーン上のキーボードが有効となっている場合、以下の機能が利用可能となります。



アイコン	説明
	拡張キーボード・キーを表示します。ファンクション・キー、矢印キー、キーの組み合わせ（例：CTRL+ALT+DEL）等。このキーを押すことにより、OS の仮想キーボードと拡張キーの切り替えも行えます。
	ESC キーをシミュレートします。
	TAB キーをシミュレートします。
	CTRL キーを押す事をシミュレートします。 アクティブな場合には、緑のライトが点灯します。
	ALT キーを押す事をシミュレートします。 アクティブな場合には、緑のライトが点灯します。
	Windows キーを押す事をシミュレートします。（Windows のスタート・メニューを表示）
	<p>スクリーン上の PC キーボードを表示します。デバイスの仮想キーボードが初期設定となります。スクリーン上の PC キーボードはより優れたユーザエクスペリエンスを提供します。</p> <p>キーボードが表示されている間にボタンを再度押すと、初期設定の OS キ</p>



	ーボードと AccessToGo キーボードが切り替わります。
	このボタンを押すと、有効となっている言語間での切り替えがなされます。言語を有効とするには、 [設定] - [拡張キーボード言語選択] にて設定をします(拡張キーボードは日本語に対応していません)。
	スクリーン上のキーボードを閉じます。

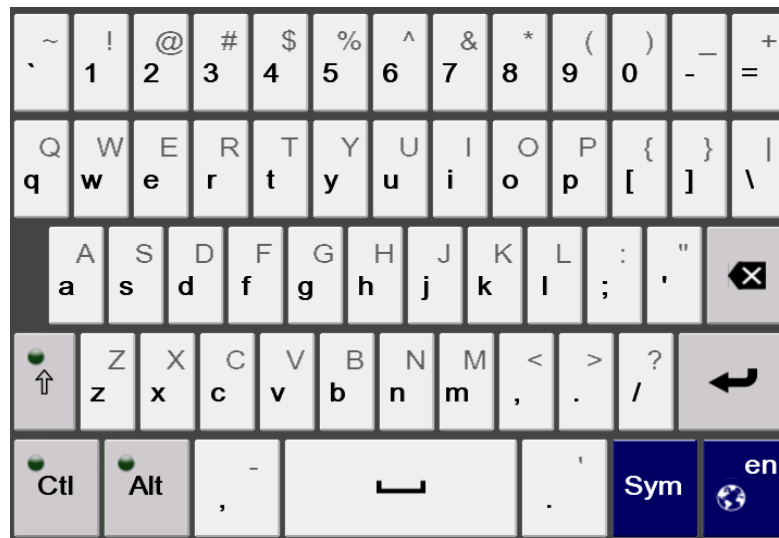
スクリーン上のキーボードを使用する

スクリーン上のキーボード・ボタンを押すと、**AccessToGo** キーボードが表示されます。**AccessToGo** キーボードは更なるキーと機能を提供するため、**Windows** ベースのアプリケーションでタイピングする際により優れたユーザエクスペリエンスを提供することができます。

スクリーン上のキーボード・ボタン:



AccessToGo キーボード:



スクリーン上のファンクション・キーボードを使用する

スクリーン上のファンクション・キーボード用のボタンを押すと、AccessToGo のファンクション・キーボードが表示されます。ファンクション・キーボードはファンクション・キーや一般的な Windows キーの組み合わせやスクロール・キーを提供するため、Windows ベースのアプリケーションやデスクトップ上でタイプをする際、より優れたユーザエクスペリエンスを提供する事が可能となります。

スクリーン上のファンクション・ボタン：



AccessToGo ファンクション・キーボード：

F1	F2	F3	F4	F5	F6	Ctl+Tab	Ctl+F4
F7	F8	F9	F10	F11	F12	Alt+Tab	Alt+F4
Ctl+Z	Ctl+Alt	Ctl+Esc	Home	▲	PgUp	Del	
Ctl+X	Ctl+C	Ctl+V	◀	Ins	▶	✖	
↑	Ctl + Alt + Del		End	▼	PgDn	↶	

リモート・セッションの PPI 解像度

エンドユーザ・デバイスとユーザ選択の多様化に対応する上で、ユーザがリモート・デスクトップやアプリケーションを開始する際に、最適な解像度を提供することが高まっています。

初期設定として、7 インチ以下のスクリーン・サイズのデバイスでの **PPI** は 190 となり、7 インチまたはそれ以上のスクリーン・サイズのデバイスでの **PPI** は 170 となります。これらの設定により、デバイスのスクリーン・サイズに合った最適な解像度を提供することができますが、ユーザはカスタムの **PPI** 値を選択することを望むかもしれません。ご利用のデバイスで最適の解像度で表示するためにどのように **PPI** を用いるかにつきましては「高度な機能」の章をご参照ください。

デバイスとホスト間でのテキストのコピー&ペースト

AccessToGo にはコピー&ペースト機能用として、テキストのみのクリップボードのサポートが含まれています。クリップボードは初期設定として有効となっており、**設定のデバイスとホスト間のコピー/貼り付けを有効にする** を非選択とすることで無効にする事ができます。

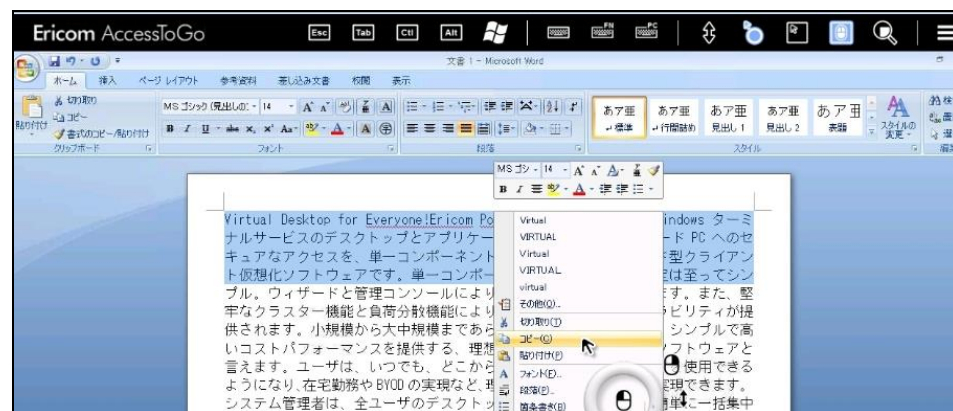
デバイスとホスト間のコピー/貼り付け
を有効にする



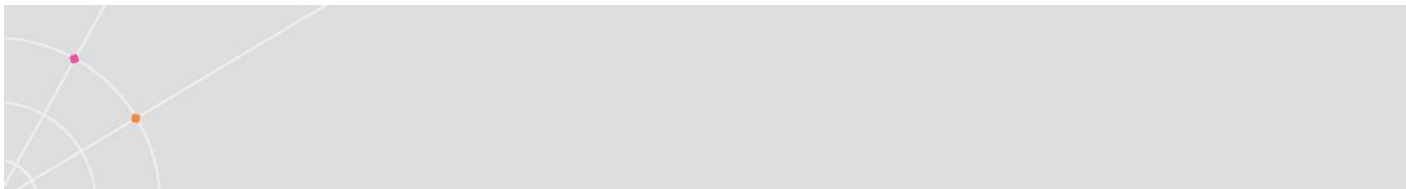
この機能が有効となっている場合には、コピー&ペースト機能が双方向にてサポートされます。つまり、ローカル用デバイスから AccessToGo セッションへのコピー&ペースト、また AccessToGo セッションからローカル用デバイスへのコピー&ペーストが可能となります。

以下の例では、リモートの AccessToGo セッションからローカル用デバイスのブラウザへのコピー&ペーストを用いる様子が示されています。

リモートの AccessToGo セッションからコピーを実行します。



お望みのテキストがクリップボードにコピーされた後、ローカルのアプリケーションにてペーストを実行します。すると選択されたテキストがクリップボードからコピーされます。



注意 一部のデバイスでは、ローカルアプリケーションに切り替えると **AccessToGo** のセッションが終了される場合があります。

物理キーボードとマウスを使用する

物理的な入力／出力デバイスはオペレーティング・システムにて扱われ、アプリケーションで直接扱われる事はありません。物理的な入力／出力デバイスが使用されている場合、**AccessToGo** はオペレーティング・システムから受け取った内容に基づいて物理キーボードやマウスからの入力を受け入れます。右シフト等の物理キーボードの一部のキーはオペレーティング・システムがそれらをサポートしていないため、正常に動作しないかもしれません。（それら一部のキーは同じデバイスのすべてのアプリケーションにおいて正常に機能しません）

物理キーボードを有効とする

Bluetooth キーボード等の物理キーボードは、セッションが確立した後、すぐに用いる事ができない場合があります（デバイスにより異なります）。セッション接続した後、キーボードが機能しないデバイスでは、**AccessToGo Device Keyboard**（以下のボタンをタップする）を有効にして再度入力を試みてください。



注意 物理マウスを用いている場合、右のマウス・ボタンは **Android 4.0** またはそれ以上が実行されているデバイスにおいてのみサポートされます。

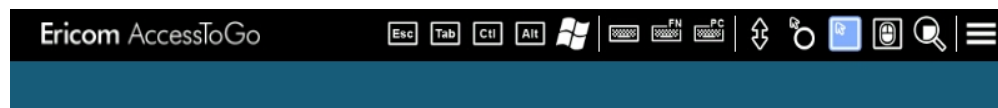
Android と **Apple iOS** デバイスにてテストされた **Bluetooth** キーボード：

HP Touchpad Bluetooth キーボード、**Microsoft Bluetooth** キーボード 6000










タブレット・ファンクション・バーを使用する

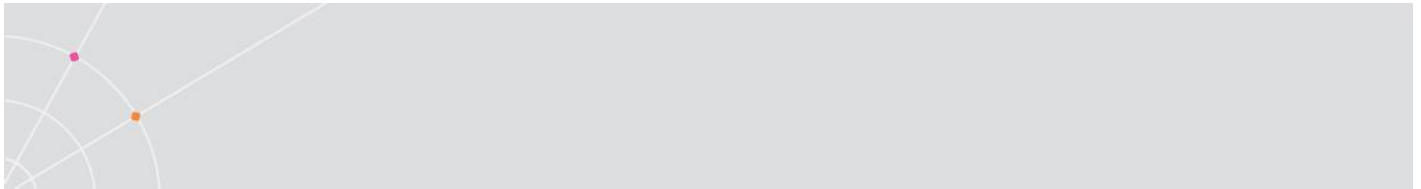
タブレット・ファンクション・バーは、アクティブなセッション時に用いられる一般的なキー（ESC、TAB、CTRL、ALT、Windows）や機能（スクリーン上のマウスの表示等）を表示します。このバーは **設定** の **上部バーの有効化** のチェックを外すことにより無効とすることができます。






AccessToGo はスタートアップ時にデバイスがタブレットかどうかを識別します。デバイスにて **AccessToGo** に 5.7 インチ以上のディスプレイ範囲がある場合にはタブレットとして識別され、タブレット・ファンクション・バーが（初期設定として）アクティブなセッションの上部に表示されます。



ボタンをタップし、ホールドすると、そのボタンの目的の手短な説明が表示されます。

ボタン	機能	説明
	Esc	エスケープ・キー
	Tab	タブ・キー
	Ctrl	コントロール・キー
	Alt	Alt キー
	Windows キー	Windows キーの実行
	デバイス用キーボード	テキスト入力用のデバイス・キーボードの表示／非表示
	ファンクション用キーボード	特殊キーとの組み合わせを実行するためのファンクション・キーボードの表示／非表示
	PC 用キーボード	テキスト入力のための PC 用キーボードの表示／非表示。この機能には一般的な PC 用キーボードのレイアウトが用いられています (拡張キーボードは日本語に対応していません)。
	スクロール・ホイールのモード	このモードが有効になっている場合、スクリーン上で指を上下にスライドさせると、スクロール・ホイールの動作をします








	スクリーン上のマウス	スクリーン上のマウスの表示／非表示
	スクリーン上のタッチパッド・マウス	スクリーン上のタッチパッド・マウスの表示／非表示
	リモート・マウスのモード	有効となっている場合、すべてのマウスの動作とジェスチャはリモート・セッション内で適用されます。例えば、現在の表示をズームアウトする動作は無効となります。ローカルのスクリーンをスクロールするには、指を 0.5 秒ほどホールドした後、動かすようにします。
	ズームイン／ズームアウト	スクリーンのズームイン／ズームアウト
	拡張メニュー	追加の AccessToGo の機能をメニューで表示します。

拡張メニューを使用する

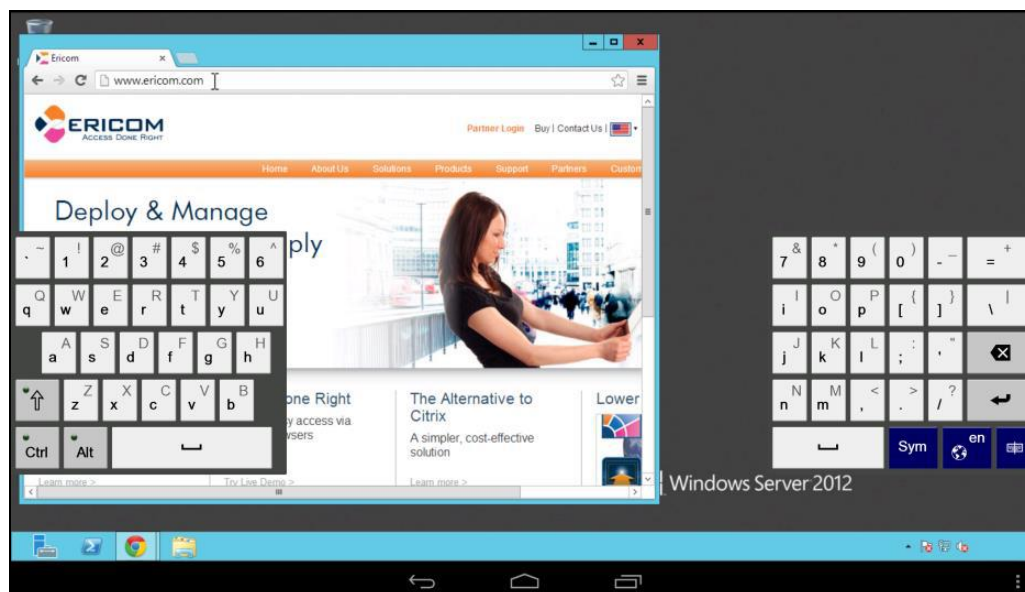


拡張メニューは **AccessToGo** ツールバーやタブレット・バーより利用可能となっており、下記の追加機能を提供します。

	現在のキーボード言語	現在のキーボード言語を表示します。
	ジェスチャの設定	サポートされているジェスチャにて、お望みの機能を設定します。
	リモート PPI	アクティブなセッション間に PPI を設定します。リモートのセッションは自動的にサイズ調整します。
	スクリーン上のヘルプ	スクリーン上のヘルプのダイアログを表示します。
	セッションを閉じる	現在のセッションを閉じて、以前のメニューに戻ります。

タブレット分割キーボードを使用する

AccessToGo には分割された PC キーボードを用いる機能が含まれています。この PC キーボードのモードは仮想キーボードをより人間工学的に合わせてデザインすることを目的としており、エンドユーザがデバイスを手に持った状態で親指によりタイピングすることを可能とします。



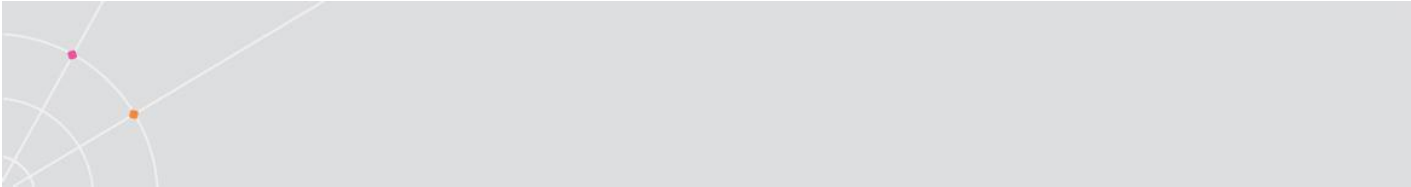
分割されたキーボードを無効とする

分割された PC キーボードを無効とし、フル PC キーボードのモードに切り替えるには、右下にあるこのボタンをタップします。



テキスト入力時のキーボードの自動表示と配置

テキストの入力用フィールドをより利用しやすくするため、AccessToGo ではビルトインのキーボードを自動的に表示し、ディスプレイを配置します。テキストのフィールドがフォーカスされていない場合には、キーボードは自動的に閉じられます。一部のアプリ



リケーションでは **AccessToGo** にてテキストの入力用フィールドを探知できないような仕様で開発されているため、この機能が利用できない場合があります。

注意 タブレットにて分割されたキーボードが有効な場合、この機能は適用されません。

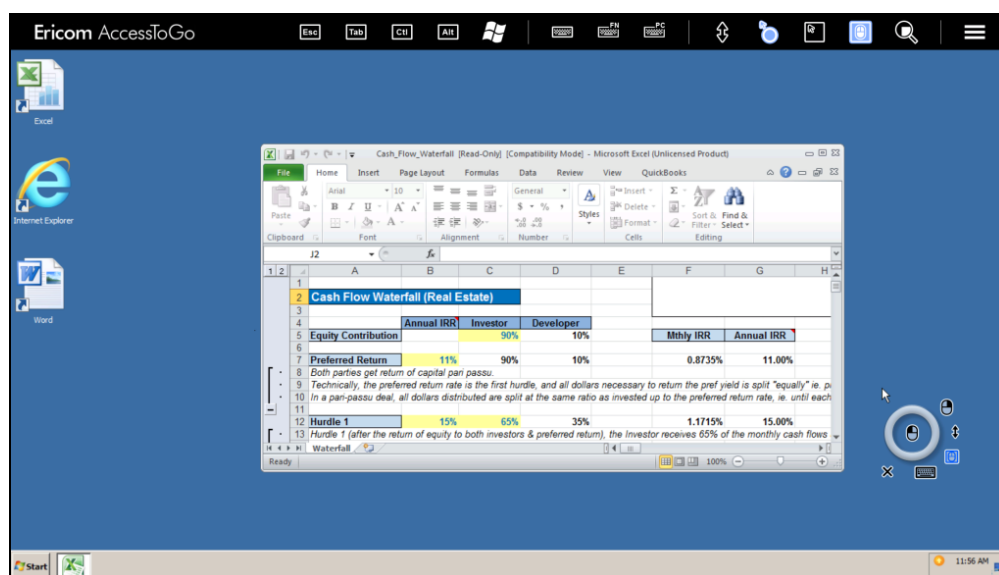
キーボードの自動表示と配置を無効とする

設定メニューにて【言語とキーボード】に進み、【キーボードの自動表示】を非選択にします。

4. デスクトップに接続する

接続用パラメータを設定した後、お望みの場合には接続を保存します。接続用アイコンを押して接続を開始します。

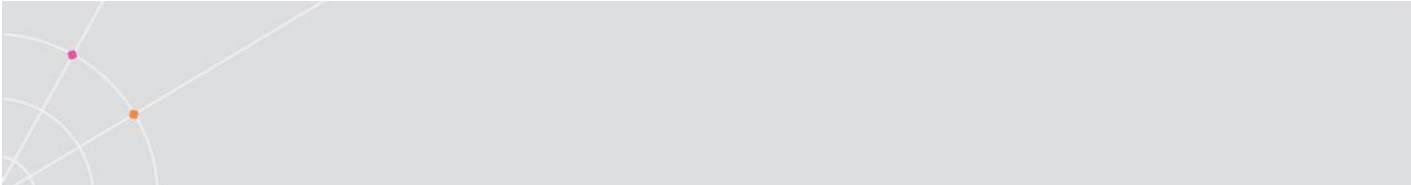
無事にログインした後、ユーザはデスクトップに接続します。仮想デスクトップの内容はブラウザのウインドウ内に表示されます。**AccessToGo** はマウス・ボタンとキーボードのイベントをインターセプトし、それらを RDP ホストに転送します。もしデバイスがタブレットととして認識された場合には、**AccessToGo** のツールバーは以下のようにアプリケーションの上に表示されます。



アクティブなセッションを切断するには、デバイスの戻るボタンを押します。プロンプトが表示され、切断するリクエストを確認します。切断コマンドは **Windows** のスタートメニューから使用することができません。



Blaze RDP の高速化接続を有効にするには、オプションの **Access Server** を RDP ホストにインストールしなければなりません。



RDP ホストとしては、7、2003、2008 R2、2012R2 がサポートされています。

注意 **Blaze** モードを用いるには、RDP ホスト上で **Access Server 3.x** が必要とされます。もし古いバージョンの **Blaze Server** がインストールされている場合には、接続が RDP プロトコルにフォールバックされます。

自動角度調整と自動サイズ調整

フルスクリーン・セッションの間、デバイスの角度が変わった場合に新たな解像度をサポートするため、**AccessToGo** はスクリーンのサイズを自動調整することができます。
（自動角度調整が有効となっている場合）この機能を有効するには、アプリケーションの **設定** に進み、「**タブレット回転時の全画面リサイズ**」を選択します。



5. アプリケーションに接続する

デスクトップ全体ではなくアプリケーションのみを開始するには、接続パラメータのプログラム・パラメータを設定します。

プログラム・パラメータ	
起動時に次のプログラムを起動する	接続時に RDP ホスト上の特定のプログラムのみ開始するように接続を設定します。
プログラムのパスとファイル名	RDP ホストから開始されるアプリケーションへのパス。アプリケーションが適切にインストールされていることを確認してください。
次のフォルダで開始する	アプリケーションの実行フォルダへのパス。

アプリケーションが有効となっており、かつ【起動時に次のプログラムを起動する】が選択されている場合には、セッションが接続された際にアプリケーションのみが表示されます。開始されたアプリケーションはセッション・エリア全体をカバーし、リモート・デスクトップは表示されません。



リモート・アプリケーションはターミナルサービスに接続された場合にのみ実行されます。この機能は Windows ワークステーションのオペレーティング・システム（例：Windows 7）では利用できません。

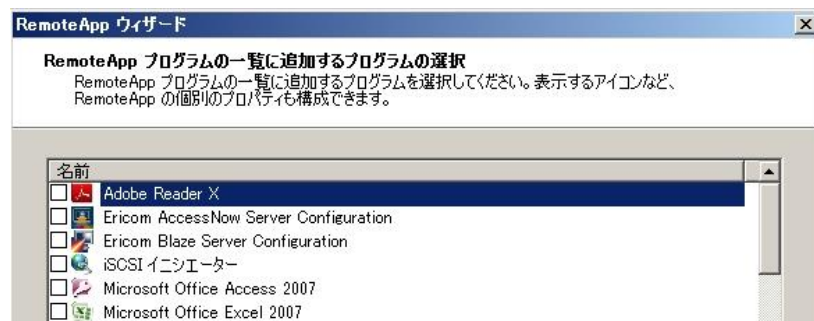
Windows 2008 ターミナルサーバ（と 2008 R2RDS）で、RemoteApps が有効となっていないと始まりません。開始されるアプリケーションは RemoteApps プログラムの許可されたリストに追加されなければなりません。

RemoteApp プログラム		RemoteApp プログラムの追加(D)	引数
名前			
ペイント		RD Web アクセスに表示する(S)	無効
PowerTerm Terminal Serv		RD Web アクセスに表示しない(I)	制限なし
PowerTerm Terminal Serv		rdp ファイルの作成(C)	制限なし
PowerTerm Terminal Serv		Windows インストーラー パッケージの作成(W)	制限なし

RemoteApp にアプリケーションを追加するには、それぞれ指示に従います。



TS/RDS を用いて開始される対象となるアプリケーションを選択します。



対象となるアプリケーションが追加された後、エンドユーザに提供する前に、AccessToGo を用いて接続をテストします。



6. リモート・アクセスを設定する

AccessToGo は、RDP をサポートするすべての Windows ベースの PC にてリモート・アクセス用ソリューションとして用いる事ができます。一部の Windows オペレーティング・システムは受信用 RDP セッションをサポートしていません。（例： Windows 7 Home）基本的なリモート・アクセス接続を導入するための手順は以下の通りです。

- 1) ターゲットとなる PC に対し、リモートの RDP 接続が可能かどうかをネットワーク管理者に確認します。一部の会社では所有 PC に対する RDP 接続を禁じています。
- 2) エンドユーザのデバイス（例： iPad）に AccessToGo をインストールします。
- 3) ターゲットとなる PC で RDP を有効とします。[コントロールパネル]-[システム]-[リモートの設定]に進みます。リモートデスクトップのセクションにて「リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する」を選択してください。ネットワークレベル認証は現在サポートされていないため、3 番目の設定は選択しないでください。
- 4) ユーザーの選択ボタンをクリックし、リモート接続を許可するユーザを追加します。OK をクリックします。
- 5) PC の Windows ファイヤーウォールにて、受信用 RDP 接続を許可している事を確認します。（初期設定ポートは 3389）
- 6) RDP ポート経由でターゲットとなる PC への受信用接続を許可するようにネットワークまたはルータのファイヤーウォールを設定します。
- 7) ターゲットとなる PC のアドレスに接続するよう AccessToGo を設定します。もしリモートより接続がなされる場合には、ターゲットとなる PC の受信用接続ポートに転送するようにルールが設定されているファイヤーウォール／ルータの社外アドレスに対して受信がなされるようにします。
- 8) オプションの Access Server が RDP 高速化のために用いられている場合には、Blaze ポートが 8080 であることを覚えておいてください。
- 9) オプションの Ericom Secure Gateway がリモート接続のために用いられている場合には、ネットワークのファイヤーウォールにてポート 443（RDP ポートではなく）が必要となります。Secure Gateway のポート値は変更する事が可能です。より詳しい情報につきましては、Ericom Secure Gateway の資料をお読みください。



7. PowerTerm WebConnect 接続を設定する

AccessToGo は PowerTerm WebConnect コネクションブローカー経由でホストされているアプリケーションやデスクトップへの接続に使用する事ができます。リモート・アクセス接続をリモート・セッションに導入するための手順は以下の通りです。

- 1) ターゲットとなる RDP ホストに対し、リモートの RDP 接続が可能かどうかをネットワーク管理者に確認します。
- 2) ターゲットとなる PC にて RDP を有効とします。[コントロールパネル]-[システム]-[リモートの設定]に進みます。リモートデスクトップのセクションにて「リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する」を選択してください。ネットワークレベル認証は現在サポートされていないため、3 番目の設定は選択しないでください。
- 3) ユーザーの選択ボタンをクリックし、リモート接続を許可するユーザを追加します。OK をクリックします。
- 4) システムの Windows ファイヤーウォールにて、受信用 RDP と Blaze、またはそのいずれかの接続が許可されている事を確認します。（初期設定ポートはそれぞれ 3389、3399 となります）
- 5) RDP ポート経由でターゲットとなる PC への受信用接続を許可するようにネットワークまたはルータのファイヤーウォールを設定します。
- 6) エンドユーザのデバイス（例：iPad）に AccessToGo をインストールします。
- 7) PowerTerm WebConnect サーバのアドレスに接続するよう AccessToGo を設定します。ポートが 4000 でない場合には、ポートを明確に指定します。（例：192.168.1.1:443）
 - a. もしオプションの Ericom Secure Gateway がリモート接続用に用いられている場合には、その社外アドレスとポート 443（PowerTerm WebConnect ポートではなく）を指定します。Secure Gateway は PowerTerm WebConnect サーバに対し、リバース・プロキシとして動作します。Secure Gateway のポート値は変更する事が可能です。（初期設定値は 443）より詳しい情報につきましては、Ericom Secure Gateway の資料をお読みください。
- 8) PowerTerm WebConnect にログインするために用いられるオプションのユーザ名とパスワードを設定します。

注意 PowerTerm WebConnect SmartInternal 設定を用いる場合には、この環境変数をサーバにて設定しなければなりません。






SmartInternalGateway を 1 に設定します。

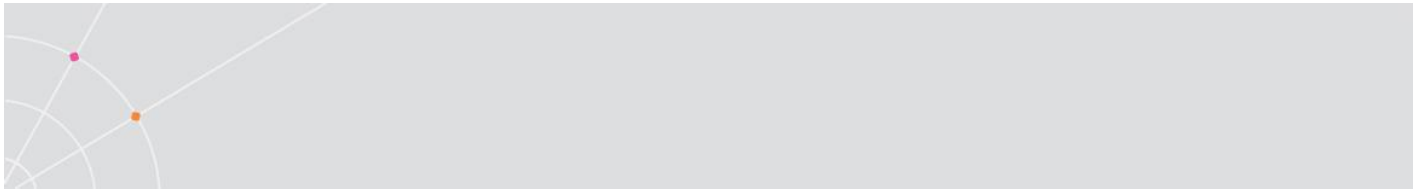
ユーザインターフェイスを用いる




PowerTerm WebConnect Server にて正しく認証がなされた後、PowerTerm WebConnect の接続用インターフェイスが表示されます。



ユーザにて選択可能なタブのオプションは 4 つあります。



機能	説明
	PowerTerm WebConnect をログアウトします。
 アプリ	すべての割り当てられたアプリケーションとデスクトップを表示します。
 お気に入り	ユーザがお気に入りとして選んだすべての割り当てられたアプリケーションとデスクトップを表示します。
 最近の使用アプリ	最近用いられたすべての割り当てられたアプリケーションとデスクトップを表示します。
	自動 PPI リサイズなどの AccessToGo の機能を設定するために設定用ページにアクセスします。



	<p>検索機能にて用いられるキーワードをこのフィールドに入力します。検索ボタンをタップして、検索を開始します。</p>
	<p>検索用フィールドにて入力されたキーワードを含む配信された接続を検索します。例えば「pa」を検索すると、Paint、Wordpad、Space Gameなどが返されます。</p>
	<p>検索フィールドにキーワードが入力されている場合、こちらのボタンをタップすると、検索フィールドが空になります。</p>

接続をタップし、ホールドすると、オプションのメニューが表示されます。

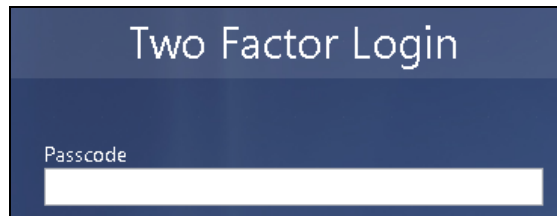


機能	説明
	<p>接続を開始する</p>
	<p>接続をお気に入りに追加する</p>

接続を検索するには、検索フィールドにキーワードを入力し、検索アイコンをタップします。この検索をもとに、すべての関連する接続が表示されます。

二要素認証のサポート

二要素認証が有効となっている **PowerTerm WebConnect 6.0** 環境に接続する際、最初のパスワードのログインの後、ダイアログが表示され、二番目の認証要素が求められます。



二番目の認証要素が成功した場合には、リソースのリストが表示されます。もし認証が失敗した場合には、再度認証要素を入力することが求められます。



8. VMWARE VIEW 接続を設定する

AccessToGo は VMware View VDI コネクションブローカー経由で、ホストされている仮想デスクトップへの接続に使用する事ができます。基本的なリモート・アクセス接続を仮想デスクトップに導入するための手順は以下の通りです。

- 1) ターゲットとなる仮想デスクトップに対し、リモートの RDP 接続が可能かどうかをネットワーク管理者に確認します。
- 2) エンドユーザのデバイス（例：iPad）に AccessToGo をインストールします。
- 3) ターゲットとなる PC にて RDP を有効とします。[コントロールパネル]-[システム]-[リモートの設定]に進みます。リモートデスクトップのセクションにて「リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する」を選択してください。ネットワークレベル認証は現在サポートされていないため、3 番目の設定は選択しないでください。
- 4) ユーザーの選択ボタンをクリックし、リモート接続を許可するユーザを追加します。OK をクリックします。
- 5) PC の Windows ファイヤーウォールにて、受信用 RDP と Blaze、またはそのいずれかの接続が許可されている事を確認します。（初期設定ポートはそれぞれ 3389、3399 となります）
- 6) RDP ポート経由でターゲットとなる PC への受信用接続を許可するようにネットワークまたはルータのファイヤーウォールを設定します。
- 7) VMware View のブローカー・サーバのアドレスに接続するよう AccessToGo を設定します。もしリモートより接続がなされる場合には、ターゲットとなる PC の受信用接続ポートに転送するようにルールが設定されているファイヤーウォール／ルータの社外アドレスを指定してください。
 - a. リモート接続のためにオプションの Ericom Secure Gateway が用いられている場合には、ネットワークのファイヤーウォールにてポート 443（RDP ポートではなく）が必要とされます。Secure Gateway のポート値は変更する事が可能です。より詳しい情報につきましては、Ericom Secure Gateway の資料をお読みください。
- 8) VMware View にログインするために用いられるオプションのユーザ名とパスワードを設定します。

注意	プライマリの仮想デスクトップ用イメージ（ゴールド・イメージ／テンプレート）を作成するために上記の 3)、4)、5) の手順に従う事により、それらのイメージは自動的にプライマリよりクローンとして仮想デスクトップに展開されます。
----	--

9. 設定

接続リストのスクリーン上で設定ボタンをクリックし、AccessToGo のアプリケーションの設定をします。



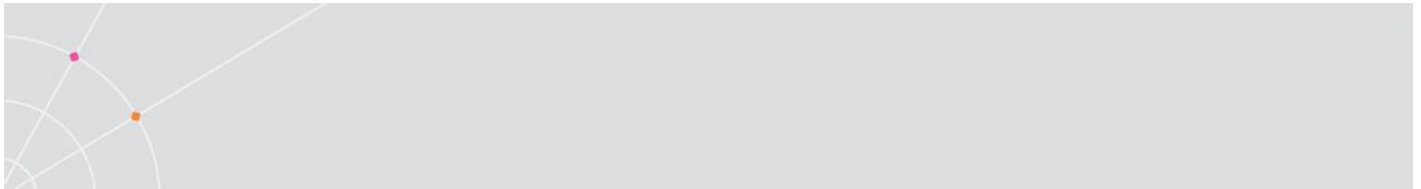
利用可能な設定はそれぞれ、外観、ジェスチャ、言語とキーボード、接続、その他のカテゴリにまとめられています。

外観

下側のバーを常に表示	接続時にスクリーン下側にツールバーを表示します。
タブレット回転時の全面リサイズ	デバイスにて自動角度調整がサポートされている場合には、デバイスの角度が変わった際、AccessToGo はセッションに再接続し、新たな解像度をサポートします。この機能は接続がフルスクリーンモードの場合においてのみ適用されます。
クリックアニメーションの有効化	チェックされている場合、ユーザが AccessToGo セッション時にシングル・クリックやダブル・クリック（長いシングル・タップ）を実行した際、アニメーションが表示されます。
リモートデスクトップ PPI	PPI について記述している箇所をご覧ください。
フルスクリーン上でのリモートマウス・モード	仮想キーボードが開いていない場合に限り、リモート・マウス・モードを有効にします。（ユーザがスクリーン内でナビゲードできるようにするため）

言語とキーボード

ユーザインターフェース言語	AccessToGo アプリケーションのインターフェイスで使用する言語を変更します。
初期設定のキーボードタイプ	ネイティブのデバイスのキーボード用レイアウトまたは PC キーボードのキーボードを選択します。
拡張キーボード言語選択	AccessToGo にて用いられる PC キーボードの言語を選択



	します。
リモートキーボードで使用する言語	お望みのキーボードの言語地域を選択します。この言語設定はリモート RDP セッションにて用いられる言語と同様のものに設定されていなければなりません。
キーボードのスキャンコードの使用	キーボードのスキャン・コードのモードを有効とします。この設定は特定のオペレーティング・システムやアプリケーションで有効にされなければなりません。もしユーザがデスクトップのセッションやアプリケーションにて文字入力できない場合には、この設定を有効とするようにします。
キーボードの自動表示	テキストのフィールドにフォーカスがなされている場合にキーボードを自動表示し、テキストのフィールドを配置する機能を有効／無効にします。

接続

デバイスとホスト間のコピー&ペーストを有効とする	デバイスとホストセッション間のコピー&ペーストを許可する機能を有効／無効にします
接続中断時の再接続	セッションの再接続を有効にするにはこの設定を選択します
PowerTerm WebConnect ／ VMware View タイムアウト	設定されている時間内に接続を確立できない場合には、 AccessToGo は接続を確立するための試みを停止します
リモートコンピュータからの切断を確認	選択されている場合、ユーザが接続を切断するように試みた際に確認用プロンプトが表示されます

バージョン

AccessToGo バージョン	バージョン番号とビルド
このバージョンでの新機能	このバージョンでの新たな機能のリストを表示
デバイス	デバイス ID
OS バージョン	オペレーティング・システムの種類とそのバージョン
設定のリセット	アプリケーションの設定を初期設定に戻します

デバッグログ

Ericom 社テクニカル・サポートから要請がなされた場合に有効とします

ジェスチャ

生産性をより高めることを目的として、**AccessToGo** では手のジェスチャをサポートしています。サポートされているジェスチャにて、特定の動作をするように設定することができるかもしれません。

ジェスチャを変更するには、**設定** メニューにて ジェスチャをタップします。



変更ボタンをタップして、お望みのジェスチャを変更します。



以下の画像では、初期設定のジェスチャの設定が表示されています。

2本指のジェスチャー	3本指のジェスチャー
上スワイプ 下スクロール	上スワイプ Page Up
下スワイプ 上スクロール	下スワイプ Page Down
左スワイプ MS Excelの左スクロール	左スワイプ Alt + Tab
右スワイプ MS Excelの右スクロール	右スワイプ Alt + Shift
タップ ファンクションキーボードの切り替え	タップ キーボードの切り替え

ジェスチャはアクティブ・セッション中に、拡張メニュー内の **ジェスチャの設定** をタップすることで設定することもできます。

注意 **AccessToGo 3.5** 以降を初めて使用する場合、二本指のタップを新たなズーム機能として選択するためのプロンプトが表示されます。ズーム・ジェスチャを使用する場合、**はい** をクリックします。



タップ
ズーム

リモート・デスクトップのセッション PPI（インチあたりのピクセル）

この Ericom 社の特許申請技術はユーザがデバイスに応じて理想的な PPI を選択することを可能とします。エンドユーザ・デバイスとユーザ選択の多様化に対応する上で、ユーザがリモート・デスクトップやアプリケーションを開始する際に、最適な解像度を提供することの重要性が高まっています。

初期設定として、7 インチ以下のスクリーン・サイズのデバイスでの推奨 PPI は 190 となり、7 インチまたはそれ以上のスクリーン・サイズのデバイスでの PPI は 170 となります。これらの設定により、デバイスのスクリーン・サイズに合った最適な解像度を提供することができますが、ユーザはカスタムでの PPI 値を選択することを望むかもしれません。

The image shows a user interface for selecting Remote Desktop PPI. It consists of two panels. The left panel is titled 'リモートデスクトップPPI' and lists several PPI options with radio buttons. The '推奨PPI (190)' option is selected, indicated by a yellow dot. The right panel is a scrollable list of PPI values from 180 to 240, each with a radio button.

リモートデスクトップPPI	
固有デバイスPPI (326)	<input type="radio"/>
推奨PPI (190)	<input checked="" type="radio"/>
130 PPI	<input type="radio"/>
140 PPI	<input type="radio"/>
150 PPI	<input type="radio"/>
160 PPI	<input type="radio"/>
170 PPI	<input type="radio"/>

180 PPI	<input type="radio"/>
190 PPI	<input checked="" type="radio"/>
200 PPI	<input type="radio"/>
210 PPI	<input type="radio"/>
220 PPI	<input type="radio"/>
230 PPI	<input type="radio"/>
240 PPI	<input type="radio"/>

解像度の低いデバイス（例：800x480）では、デスクトップのスペースを確保するために高い PPI が用いられます。アプリケーションやデスクトップでは「ズームアウト」の効果が適用されます。

解像度の高いデバイス（例：2560x1560）では、グラフィックスやテキストを見やすくするために低い PPI が用いられます。アプリケーションやデスクトップでは「ズームイン」の効果が適用されます。

初期設定値は 190 PPI です。

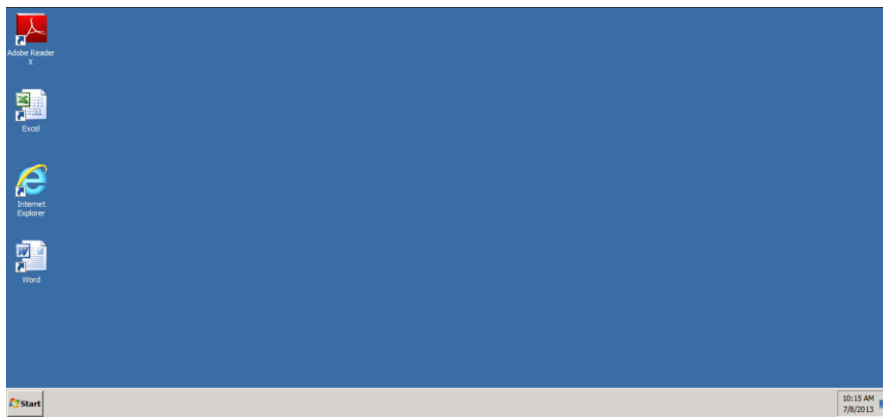
サンプルのスクリーンショット

検証デバイス：Samsung 3S

OS：アンドロイド 4.1.2

ネイティブ PPI：304

固有デバイス PPI を使用している場合、リモート・デスクトップのセッションはデバイスの利用可能な解像度をすべて**使用**します。最初のスクリーンショットで示されているように、アイコンの画像とテキストは特定のユーザには小さすぎるかもしれません。



この2番目のスクリーンショットでは、PPIが190に設定されているため、アイコンやテキストが大きく表示され、読み易くなっています。セッションにはデバイスの表示エリア全体が利用されますが、低い解像度のデスクトップを表示する目的で、インチごとのピクセルが少なくなっています。





10. URL スキーム

URL スキームはあらかじめ設定されたアプリケーションやデスクトップ・セッションを AccessToGo を用いて開始するための容易な方法を提供します。AccessToGo の接続は URL スキーム「**ericom**」を用いることにより、自動的に開始する事ができます。ユーザが URL スキーム「**ericom**」にて関連づけられている **.rdp** または **.blaze** 設定ファイルを選択（またはクリック）した場合には、AccessToGo はこの設定ファイルにて指定されている通りにセッションを開始します。

注意 AccessToGo がすでに実行されている間に URL リンクをクリックすると、AccessToGo アプリケーションに切り替えられるのみとなります。リンク先にて定義されている設定を実行するには、URL が開かれる際に AccessToGo が実行されていないことを確認してください。

URL スキームを用いて AccessToGo セッションを開始するには3つの方法があります。

- 1) HTTP/HTTPS を用いて **.rdp** または **.blaze** ファイルを開始するために URL スキームを用いる（iOS と Android にてサポート）

例：

```
<a href="ericom://http://www.test.com/myconnection.rdp">Connect to RDP Demo from WWW </a>
```

```
<a href="ericom://https://www.test.com/myconnection.blaze">Connect to Blaze Demo from WWW </a>
```

- 2) デバイスの **Ericom** フォルダ内の **.rdp** または **.blaze** ファイルを開始するために URL スキームを用いる（Android のみサポート）

例：

```
<a href="ericom://myconnection.rdp">Connect to RDP Demo from root folder </a>
```

- 3) デバイスのサブフォルダから **.rdp** または **.blaze** ファイルを開始するために URL スキームを用いる（Android のみサポート）

例：

```
<a href="ericom:///sdcard/myconnection.blaze">Connect to Blaze Demo from subfolder </a>
```

.rdp ファイルまたは.blaze ファイルを作成する

AccessToGo で使用する .rdp または.blaze ファイルを作成する最善の方法は、Ericom ウェブサイトより Ericom Blaze クライアントをダウンロードすることです。Blaze クライアントを用いて接続をテストし、**Save As** ボタン で設定ファイル内に接続設定を保存します。手動で.rdp または.blaze ファイルに任意の設定値を設定するには**設定ファイルパラメータ定義** 表を参照してください。

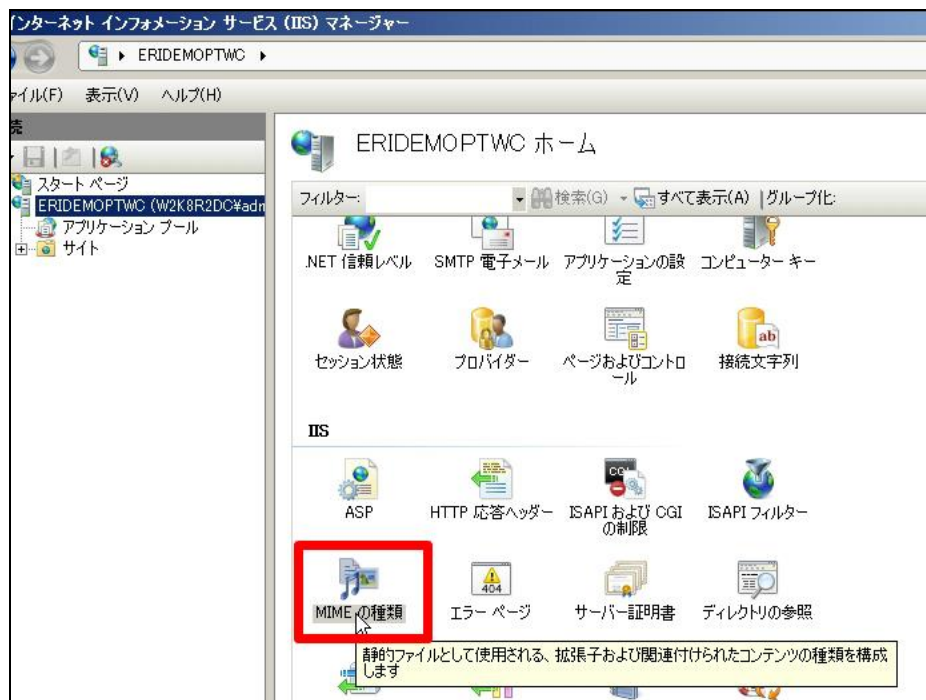
注意 .rdp ファイルと.blaze ファイルをその他のマシンに移動する場合、保存されたパスワードが自動的に転送される事はありません。

設定ファイルを用いてパスワードを渡すには、「html password」や「x password」の値を用いて対象となるパスワードを手動でファイルに入力する必要があります。「Blaze password」に含まれる入力はずべて削除します。

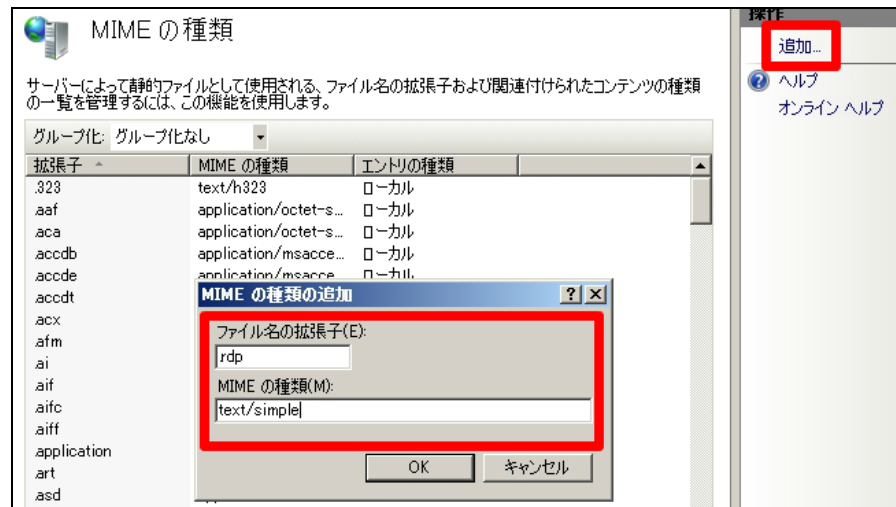
MIME タイプを Web サーバに追加する

AccessToGo の URL スキームを用いるには、MIME タイプが URL リンクをホストしている Web サーバに追加されなければなりません。以下では Microsoft IIS 7 を用いた方法が示されています。

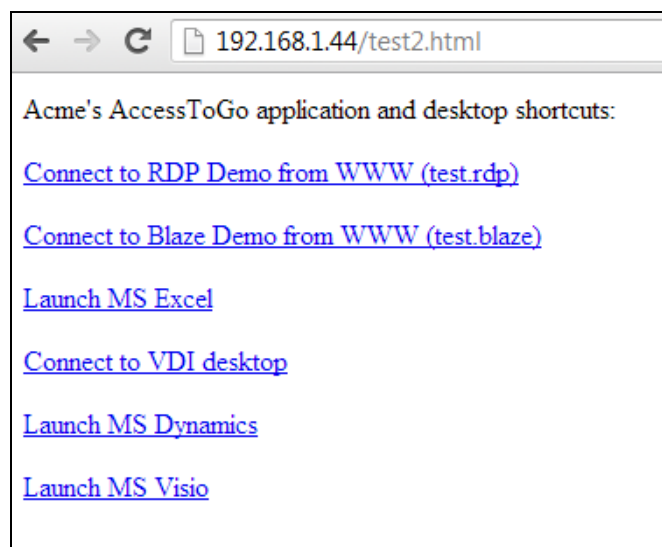
1. IIS マネージャーに進み、**MIME の種類** を開きます。



2. 操作 | **追加** をクリックし、新規の **MIME** の種類を入力します。
 - a. ファイル名の拡張子 : **.rdp**
 - b. **MIME** の種類 : **text/simple**
 - c. ファイルをもうひとつ、以下の拡張子で作成 : **.blaze**



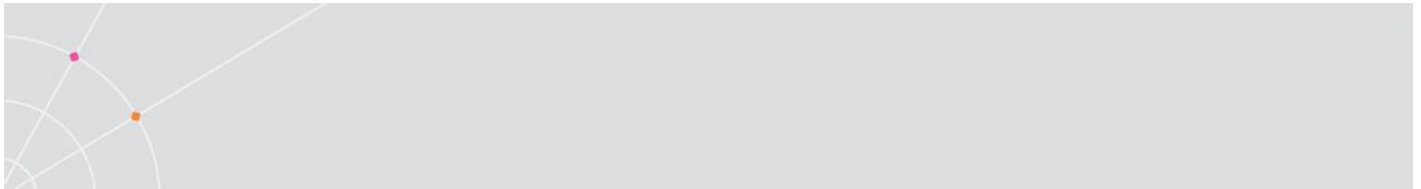
3. **AccessToGo** がインストールされているデバイスにて、ブラウザを用いて設定されているリンクのある **Web** ページを開きます。そのリンクをクリックするとあらかじめ設定されているパラメータで **AccessToGo** が自動的に開始されます。



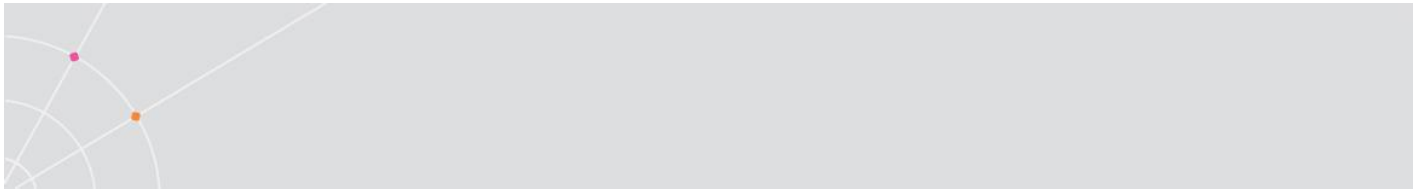
設定ファイルパラメータ定義

注意 いくつかの設定（印刷等）は AccessToGo では使用できません。

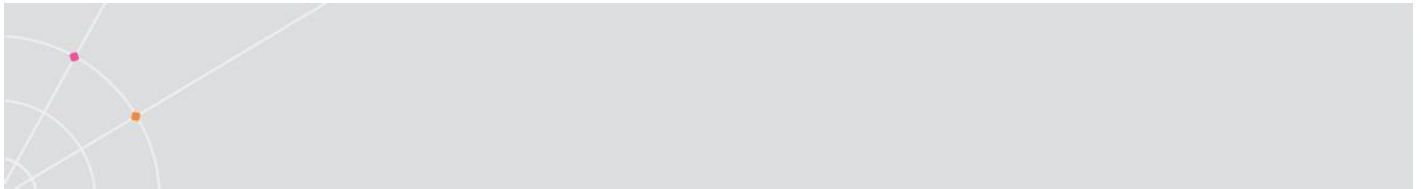
パラメータ	種類	初期設定	説明
alternate shell	s	なし	ターミナルサービスのセッションで用いられるシェルを設定します。この方法は program.exe などの代わりとなるシェルを設定する際や、ユーザがターミナルサーバにログオンする際に用いるアプリケーションを設定する際に用いる事ができます。 サンプル値 : c:\temp\test.exe
audiomode	i	2 (Blaze) 0 (AccessNow)	0, このコンピュータで再生する 1, リモートコンピュータで再生する 2, 再生しない
auto connect	i		使用できません
autoreconnection enabled	i	1	接続が解除となった場合には再接続を試みる
bitmapcachepersistenable	i		使用できません
connect to console	i	0	0, 仮想セッションに接続する 1, コンソールセッションに接続する
desktopheight	i	600	セッションのデスクトップの高さ(ピクセル)
desktopwidth	i	800	セッションのデスクトップの幅(ピクセル)+
disable cursor setting	i		使用できません
disable full window drag	i	0, Blaze 1, AccessNow	1, セッションにドラッグする際、ウインドウの内容の表示を無効とする
disable menu animation	i	0	1, セッション中、メニューのアニメーションを無効とする
disable themes	i	0	1, セッション中、テーマの利用を無効とする
disable wallpaper	i	0	1, セッション中、壁紙を無効とする
displayconnectionbar	i	1	1, フル画面セッションにて、接続バーを表示する
domain	s		使用できません
full address	s		サーバの IP アドレス／名前（及びオプションのポート値）



			サンプル値：192.168.1.1:3389
keyboardhook	i	2	一般的な Windows のキーの組み合わせを適用する 0, ローカル用コンピュータにて 1, リモート用コンピュータにて 2, フル画面モードにおいてのみ
maximizeshell	i		使用できません
password 51	b		使用できません
port	i	3389	使用できません
redirectcomports	i		使用できません
redirectdrives	i		使用できません。代替として「drivestoredirect:s:」を参照
redirectprinters	i	0	0, リダイレクトしない 1, セッションでクライアントのパラメータをリダイレクトする 2, blaze ユニバーサル(汎用)・プリンタドライバでリダイレクトする
redirectsmartcards	i	0	1, セッションでクライアントのスマートカードをリダイレクトする。(XP/.NET のみ) 現在は Linux バージョンのみ。
screen mode id	i	2	1, ウィンドウ 2, フル画面
server port	i		使用できません
session bpp	i	32	すべてのオプションをサポート：8,15,16,24,32
shell working directory	s		Alternate shell が指定されている場合に用いられるディレクトリ サンプル値：c:¥temp¥
smart sizing	i		使用できません
username	s		ログインに使用されるユーザー名 サンプル値：administrator
winposstr	s		使用できません
allow font smoothing	i	1	1, フォントスムージングを有効
redirectclipboard	i	1	0, 無効 1, 有効



prompt for credentials	i	0	0, 無効 1, 有効
session sharing	i	1	0, 無効 1, 有効
connection type	i	6	1, モデム 2, 低速 3, サテライト 4, 高速 5, WAN 6, LAN
drivestoredirect	s		リダイレクトされるドライブ：ローカルディスク (C:);CD-ROM / DVD ドライブ (D:)
dirstoredirect	s		リダイレクトされるフォルダ：「デスクトップ」、「マイドキュメント」、(そして非 Windows の「メディア」)
use multimon	i	0	0, 現在のモニタ 1, 複数モニターを使用する 2, 複数モニターを使用する (一画面がモニターをまたぐ) #, モニター #を使用する
remoteapplicationmode	i	1	使用できません
allow desktop composition	i	2	使用できません
compression	i		使用できません
disable cursor setting	i		使用できません
bitmapcachepersistenable	i		使用できません
redirectposdevices	i		使用できません
authentication level	i		使用できません
negotiate security layer	i		使用できません
gatewayhostname	s		使用できません
gatewayusagemethod	i		使用できません
gatewaycredentialssource	i		使用できません
gatewayprofileusagemethod	i		使用できません
promptcredentialonce	i		使用できません

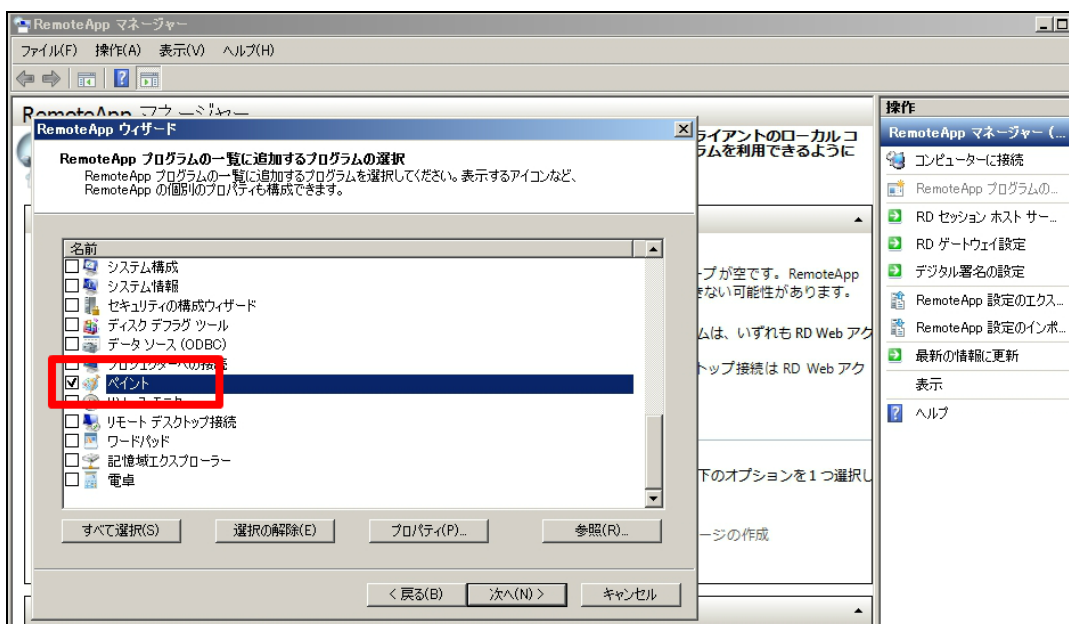


audiocapturemode	i		使用できません
videoplaybackmode	i		使用できません
use redirection server name	i		使用できません
Ericom パラメータ			
blaze version	s		バージョン番号 サンプル値：2.1
blaze acceleration	i	1	0, 無効 1, 有効
blaze image quality	i	40	Blaze 品質 (100 – ロスレス、95 – 最高、75 – 高、40 – 良、20 – 並)
Blaze password	s		暗号化されたパスワード
html password	s		暗号化なし
wc password	s		CryptUnprotectData を用いた解読
x password	s		XTEA を用いた解読
use ericom secure gateway	i	0	0, 無効 1, 有効
use secure gateway creds	i	0	0, 無効 1, 有効
ask secure gateway creds	i	0	0, 無効 1, 有効
secure gateway hostname	s		Ericom Secure Gateway のアドレス サンプル値： Test.abc.com
timezone standard name	s		Mac と Linux 用
timezone daylight name	s		Mac と Linux 用
addins to use	s		使用されているアドオン用コンポーネント名のリスト
ui language	s		使用できません

AccessToGo の URL スキームを用いてアプリケーションを開始する

ターミナルサーバやリモートデスクトップからアプリケーションのみを開始するために URL スキームを用いる場合には、RemoteApp プログラムリストに対象となるアプリケーションを追加します。

以下のスクリーンショットでは、許可されたアプリケーションのリストに MSPaint (ペイント) を追加する様子が示されています。



.rdp または.blaze ファイルにて以下のパラメータが設定されていることを確かめてください。

- remoteapplicationmode:i:1
- alternate shell:s:mspaint
- (オプション) shell working directory:s:

XTEA を用いて暗号化されたパスワードを渡す

暗号化されたパスワードを用いるには、Blaze のマニュアルを参照ください。

11. テクニカル・サポート

接続を確認する

接続上の問題が生じている場合には、AccessToGo アプリケーションと RDP ホスト間のすべてのファイヤーウォールにて適切なポートが設定されているかを確認してください。

RDP: 3389

Blaze: 3399

Secure Gateway: 443

アドレスとポートの接続状態を確認するには、デバイスに Telnet アプリをダウンロードし、ターゲットのアドレスとポートへの接続を試みます。もし *Connection Refused* メッセージが返される場合には、接続が不能となっています。

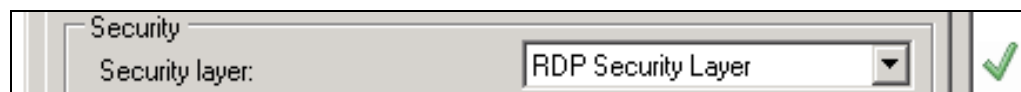
URL スキームが機能しない

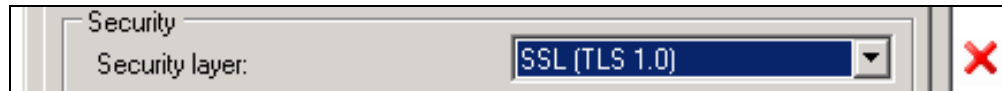
もし URL スキームが AccessToGo を開始するものの、あらかじめ設定されたパラメータで接続しない場合は以下を確認してください。

- AccessToGo がすでに実行されていない
- RDP ファイル内に設定されている RDP ホストのアドレス（DNS 名が正しくデバイスで解決されているか確認してください）
- Ericom Blaze クライアント（無料ダウンロード）を用いて設定ファイル（.rdp または.blaze）を新たに作成します。そうすることにより、すべてのパラメータが正しく定義されます。入力ミスはファイルを無効とします。

RDP SSL を無効とする

Access Server は RDP ホスト上の有効なネイティブ RDP とアクセスすることが必要となります。このため、*RDP Security Layer* を *SSL* に変更しないようにしてください。SSL 暗号化を追加するには、*RDP Security Layer* の設定を変更せず、ビルトインの AccessNow SSL 暗号化、または Secure Gateway を用いてください。





PTWC や ESG での SSL 認証情報エラー

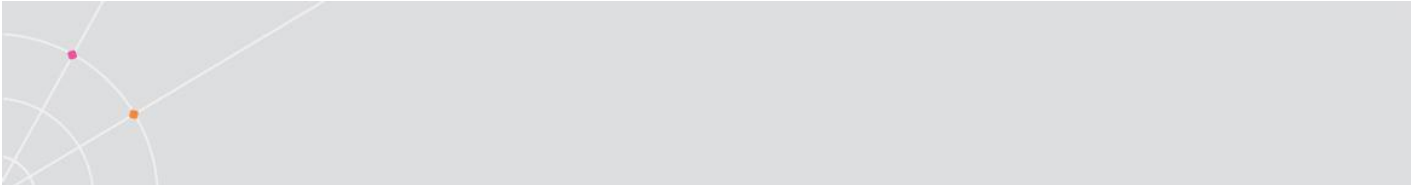
PowerTerm WebConnect (PTWC) にアクセスするために Ericom Secure Gateway (ESG) と AccessToGo を使用する場合、信頼された証明書は通常 ESG にインストールされます。サードパーティのプロバイダに信頼された証明書を要求する場合、カスタムの CSR をプロバイダに送信されなければなりません。

AccessToGo を適正にサポートするには、CSR を作成する際に以下の設定をします。

暗号化サービスプロバイダ (CSR) にてプライベートキー (秘密鍵) 用のオプションを変更します。初期設定として、Microsoft Strong Cryptographic Provider (Signature) が設定されています。この設定を *Microsoft RSA SChannel Cryptographic Provider (Encyption)* に変更します。



もし CSR が適正に設定されていない場合には、イベントビューアーに「The client and server cannot communicate, because they do not possess a common algorithm (共通のアルゴリズムがないために、クライアントとサーバの通信が不可となっています)」の

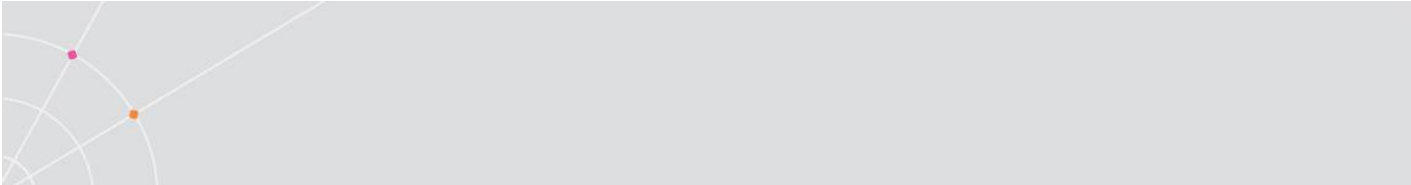


エントリが存在します。このエラーが表示された場合には、新しい証明書を **ESG** 用として生成する必要があります。

テクニカル・サポートを依頼する

AccessToGo に関するテクニカル・サポートを要請する場合には、以下の情報をこちらの E メールに送信してください。 mobile@ericom.com

- 問題の詳細
- デバイスの種類（例：Android）
- オペレーティング・システムのバージョン（例：Froyo 2.2）
- RDP ホストにて **Access Server** を用いているかどうか。
- 問題が生じているユーザ数／デバイス数
- 担当者の電話番号



ERICOM について

Ericom® Software はアプリケーション・アクセスと仮想ソリューションの分野における代表的なプロバイダーです。1993 年以来、Ericom は Microsoft® Windows® ターミナルサーバ、仮想デスクトップ、ブレード PC、レガシー・ホストやその他のシステム上にて実行されているビジネス上不可欠なアプリケーションにユーザがアクセスすることができるように支援してきました。Ericom はお客様に対して IT 投資の利益を明確にすることにより、具体的なビジネス・バリューを提供しています。米国、英国、EMEA 地区、インド、中国にオフィスがあります。加えて、北米、ヨーロッパ、アジアににおいて幅広いパートナーのネットワークがあります。3 万社以上のお客様がおり、その数は増加しています。これまで 7 億ものインストレーションを支援してきました。

製品とサービスに関するより詳しい情報につきましては、最寄りのオフィス拠点までお問い合わせください。

ウェブサイトもご覧ください。 <http://www.ericom.com>

North America

Ericom Software Inc.
231 Herbert Avenue, Bldg. #4
Closter, NJ 07624 USA
Tel +1 (201) 767 2210
Fax +1 (201) 767 2205
Toll-free 1 (888) 769 7876
Email info@ericom.com

Western Europe

Ericom Software (UK) Ltd.
11a Victoria Square
Droitwich, Worcestershire
WR9 8DE United Kingdom
Tel +44 (0) 845 644 3597
Fax +44 (0) 845 644 3598
Email info@ericom.co.uk

International

Ericom Software Ltd.
8 Hamarpeh Street
Har Hotzvim Technology Park
Jerusalem 91450 Israel
Tel +972 (2) 591 1700
Fax +972 (2) 571 4737
Email info@ericom.com